

7月14日:p.13「8. 入学手続」を更新しました。

2027 年度

入学試験募集要項

外国人留学生選抜

東京音楽大学

目次

アドミッション・ポリシー(入学受入れの方針)	3
1. 募集専攻・募集人員	5
2. 出願資格	5
3. 選考方法	6
4. 入学検定料	6
5. 日程一覧	7
6. 出願手続	7
(1) 出願の流れ	7
(2) 出願書類一覧	9
(3) 卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項	11
(4) 提出先	12
7. 試験会場	12
8. 入学手続	13
9. 学費その他の納入金(2026年度入学実績・参考)	14
10. 在留資格「留学」の取得について	15
11. 専攻別試験科目	16
12. 出願時の英語資格・検定試験について	16
13. 入学試験科目	17
1. 声楽専攻	
声楽芸術	
○入学試験科目	17
◇課題曲	18
2. 器楽専攻	
鍵盤楽器	
○入学試験科目	19
◇課題曲	20
■ピアノ	20
■ピアノ演奏家コース	20
■ピアノ・創作コース	21
■チェンバロ	21
■オルガン	21
弦・管・打楽器	
○入学試験科目	22
◇課題曲	23
弦楽器	
■ヴァイオリン	23
■ヴィオラ	24
■チェロ	25
■コントラバス	26
■ハープ	26
■クラシックギター	26
木管楽器	
■フルート	27
■オーボエ	27
■クラリネット	27
■ファゴット	28
■サクソフーン	28

金管楽器	
■ホルン	29
■トランペット	29
■トロンボーン	29
■チューバ	30
■ユーフォニアム	30
打楽器	
■ティンパニ	30
■小太鼓	30
■マリンバ	30
3. 作曲指揮専攻	
作曲「芸術音楽コース」	
○入学試験科目	31
作曲「ミュージック・メディアコース」	
○入学試験科目	32
指揮	
○入学試験科目	34
4. 音楽文化教育専攻	
○入学試験科目	35
5. ミュージック・リベラルアーツ専攻	
○入学試験科目	36
6. 吹奏楽アカデミー専攻	
○入学試験科目	38
◇課題曲	39
吹奏楽アカデミー専攻 木管楽器	
■フルート	39
■オーボエ	39
■クラリネット	39
■ファゴット	40
■サクソフォーン	40
吹奏楽アカデミー専攻 金管楽器	
■ホルン	41
■トランペット	41
■トロンボーン、バス・トロンボーン	41
■チューバ	41
■ユーフォニアム	41
吹奏楽アカデミー専攻 打楽器	
■ティンパニ	42
■小太鼓	42
■鍵盤打楽器	42
吹奏楽アカデミー専攻 弦楽器	
■コントラバス	42
■ハープ	42
7. ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	
○入学試験科目	43
14. ピアノ演奏家コースへの転コースについて	43
15. 注意事項	44
■受験上の注意	44
■出願書類の記入・提出に関する注意	44
■伴奏譜の提出について	45
■創作曲楽譜について	45
■専攻別曲目記入票の記入方法について	46
■入学者選抜試験における不正行為について	47
16. 奨学金・経済的支援制度について	48
17. 学生寮(女子)について	48

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

東京音楽大学では、入学者が本学において実りある学びを円滑に行えるように、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めています。これは、本学を受験する皆さんに、入学前に身に付けておいていただきたい能力や姿勢を示す基本方針です。本学の入学試験や選抜方法には、アドミッション・ポリシーが反映されています。

○大学において専門的に音楽を学ぶにあたり、楽譜を読む力、音を聴く力、表現の基礎となるテクニック、様式を捉える力、楽典の知識が、一定のレベルに達していることが重要です。

○音楽の学習には外国語も必要です。

○専攻によっては、ピアノ演奏や新曲視唱、新曲視奏の基礎的な能力も必要です。

各専攻のアドミッション・ポリシーは次の通りです。

声楽専攻

●声楽芸術

音楽～歌～を愛し、演奏家、教育者などを目指して学ぶための資質を有し、熱意を持って努力し続けることのできる人材を求めます。また、国際的にも活躍できる実力を持った音楽家の育成を目指すという観点から、その学習のためのより高い資質、より強い意欲が必要です。声を楽器として創り上げるために、基礎的な歌唱力、語学力が必要です。また、周囲との協調性や社会性も身に付け、豊かな人間性を育むために、広い視野を持って学ぶ姿勢が望まれます。

器楽専攻

●ピアノ

ピアノ音楽の学習を通して豊かな人間性、社会性を育むために、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広く関心を持ち、外国語を始めとする教養科目にも勉学意欲のある人材を求めます。ピアノ演奏の系統的な学習を円滑に行うために、基礎的なピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ演奏家コース

プロフェッショナルな音楽家として社会で活動できるよう、ピアノに限定することなく音楽に関して幅広い体験を積み、国内外を問わず活動の場を拡げていく意欲のある人材を求めます。器楽専攻（ピアノ）よりも高度なピアノ演奏能力を目指すために、一定水準以上のピアノ演奏技術と演奏スタイルを習得していることが必要です。

●ピアノ・創作コース

ピアノを中心としながら、創作、即興、伴奏付けなど音楽活動を幅広く行う意欲のある人材を求めます。器楽専攻（ピアノ）のアドミッション・ポリシーに加え、自作曲の創作経験が必要です。

●チェンバロ

19世紀音楽とは異なる音楽的価値やそれに応じた解釈力を学ぶことが要請されるため、音楽理論や楽器の構造への関心と歴史的な視野を持って意欲ある学びのできる人材を求めます。基礎的なチェンバロ演奏技術を習得していることが必要です。

●オルガン

オルガン奏法を多面的に学ぶために、演奏だけではなく、楽器の構造や歴史、音楽理論なども積極的に学ぶ意欲のある人材を求めます。基礎的なオルガン演奏技術を習得していることが必要です。

●弦楽器

弦楽器独特の美しく豊かな響きを追求し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

●管・打楽器

管楽器と打楽器において、高度な技術と豊かな表現力の獲得を目指し、様々な音楽分野での活躍を希望する人を求めます。各楽器において、基礎的な演奏技術と表現力を有していることが必要です。

作曲指揮専攻

●作曲「芸術音楽コース」

様々な芸術に対して興味を持ち、将来的に個性ある発信ができる人材を求めます。和声学の知識、及び楽曲制作のための技術と様式感を備えていることが必要です。

●作曲「ミュージック・メディアコース」

ポピュラー音楽を始め、様々なジャンルの音楽について興味を持ち、かつ音楽に打ち込む真剣な姿勢や熱意を備えている人材を求めます。コードネームの理解と伴奏付けの能力、基本的な和声の知識を持ち、自作曲のデモ演奏または基本的なデモ音源制作ができることが必要不可欠です。

また、今後コンポーザー、アレンジャーとして、演奏やパフォーマンスといった音楽に関わる部分に興味を持つのはもちろんのこと、現在音楽を取り巻くあらゆるツールに関しても、幅広い興味を持ち、積極的に自身の活動に生かすことのできる意欲を持つ人材を求めています。

●指揮

指揮者としての将来像を明確に描き、リーダーとして活躍できるように努力する覚悟を持っている人材を求めます。そのために、高いレベルの音楽基礎能力と、コミュニケーション能力が必要です。

音楽文化教育専攻

音楽文化に関心を持ち、その研究と実践を通して社会に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

- 1 多様な音楽文化に幅広い関心を持ち、実践活動に参加してきた者。
- 2 音楽教育及び音楽文化を学ぶ基礎となる音楽知識や技術を、高等学校までの音楽の授業及び課外活動を通して身につけた者。
- 3 論理的な思考ができ、自分の考えを文章や口頭で表現できる者。

ミュージック・リベラルアーツ専攻

音楽を愛し、音楽を専門分野として修得する意欲をもつとともに、高等学校までの基礎的な英語力があり、人や社会、歴史等に幅広く関心を持ち、主体性をもって学ぶ意欲のある学生を歓迎します。

吹奏楽アカデミー専攻

吹奏楽を愛し、より深い知識習得の意欲があり、熱意を持って向き合い、他者との関わりを大事にし、社会へ発信していこうという意欲のある人材を求めます。何らかの吹奏楽で用いられる楽器の基礎的な演奏技術を習得していることが必要です。

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻では、音楽と ICT とを融合し、エンターテインメント、およびビジネスの未来を拓く人材を育成します。そのためには「音楽を学ぶ」とはいうまでもなく、「音楽で学ぶ」ことによって「学び」の可能性を自ら探求できる学生の入学を期待します。

1. 音楽とコンピュータが好きで好奇心にあふれる者。
2. 音楽と ICT を武器に広くビジネス界で貢献したい者。
3. 論理的思考力と創造的発想力の双方を駆使し、自身の考えやアイデアを他者に伝えようとする者。

1. 募集専攻・募集人員

東京音楽大学 音楽学部 音楽学科		
募集専攻	コース・楽器	募集人員
声楽専攻	● 声楽芸術	若干名
器楽専攻	● ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン	
	● ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	● フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン	
	● ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム	
	● 打楽器	
作曲指揮専攻	● 作曲「芸術音楽コース」 ● 作曲「ミュージック・メディアコース」 ● 指揮	
音楽文化教育専攻		
ミュージック・リベラルアーツ専攻		
吹奏楽アカデミー専攻		
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻		

※複数の専攻を併願することはできません。

2. 出願資格

以下 1.～3.のいずれかに該当し、かつ 4.、5.のすべてに該当する者とします。

番号	春学期入学者 (全募集専攻)	秋学期入学者 (ミュージック・リベラルアーツ専攻のみ)
1.	高等学校または中等教育学校を卒業した者または 2027 年 3 月に卒業見込みの者	高等学校または中等教育学校を卒業した者または 2027 年 9 月に卒業見込みの者
2.	高等専門学校の 3 年次を修了した者および 2027 年 3 月修了見込みの者	高等専門学校の 3 年次を修了した者および 2027 年 9 月修了見込みの者
3.	高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および 2027 年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者 (1) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者(2027 年 3 月 31 日修了見込みの者を含む)、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および 2027 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 (3) 指定された専修学校の高等課程を修了した者および 2027 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 (4) 旧制学校等を修了した者 (5) 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCE A レベル・国際 A レベル(いずれも 3 科目以上で E 以上の評価を取得していること)、欧州バカロレア資格を保有する者および 2027 年 3 月 31 日までに保有見込みの者 (6) 国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia)の認定を受けた教育施設 12 年の課程を修了した者および 2027 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 (7) 高等学校卒業程度認定試験(旧大検)に合格した者および 2027 年 3 月 31 日までに合格見込みの者	高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および 2027 年 9 月 30 日までにこれに該当する見込みの者 (1) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者(2027 年 9 月 30 日修了見込みの者を含む)、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および 2027 年 9 月 30 日までに修了見込みの者 (3) 指定された専修学校の高等課程を修了した者および 2027 年 9 月 30 日までに修了見込みの者 (4) 旧制学校等を修了した者 (5) 外国の大学入学資格である国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、GCE A レベル・国際 A レベル(いずれも 3 科目以上で E 以上の評価を取得していること)、欧州バカロレア資格を保有する者および 2027 年 9 月 30 日までに保有見込みの者 (6) 国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia)の認定を受けた教育施設 12 年の課程を修了した者および 2027 年 9 月 30 日までに修了見込みの者 (7) 高等学校卒業程度認定試験(旧大検)に合格した者および 2027 年 9 月 30 日までに合格見込みの者
4.	外国籍を有する者	
5.	入学時「留学」の在留資格を有する者、または、長期滞在可能な在留資格を有する者。ただし、在留資格「永住者」を除く。	

※上記 1.～5.に加え、外国籍を有する者は声楽、器楽、作曲指揮、音楽文化教育、吹奏楽アカデミー、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻で受験する場合は、以下6. に該当していること。

6. 出願時に日本語能力試験(JLPT)でN2 以上に合格している者、または日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く)で 200 点以上を取得している者

※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は、出願時に出願資格6. の日本語能力の証明書を取得している必要はありませんが、日本の大学での授業や学生生活に十分な日本語能力は必要です。入学時まで、「日本語能力試験(JLPT)」N2 以上、または日本留学試験(EJU)「日本語」(読解、聴解および聴読解のみ。記述を除く)で 200 点以上の取得に努めること。

※総合型選抜(日程①)、総合型選抜(日程②)、学校推薦型選抜(指定校制)、社会人入学試験、外国人留学生選抜について、同一年度にこれらの選抜試験の複数に出願することはできません。

3. 選考方法

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)に基づき、各専攻における試験科目の成績ならびに出願書類の内容を、多面的かつ総合的に評価し、可否を判定します。

※なお、専攻の特性に応じて、特定の試験科目(実技等)の評価を重視する場合があります。

【「東京音楽大学 認定試験(楽典・聴音・新曲視唱)」の実施について】

東京音楽大学 夏期受験講習会を受講する者は、無料で「東京音楽大学 認定試験(楽典・聴音・新曲視唱)」を受験することができます。試験で認定された者は、2027 年度入学試験における当該試験科目が免除となります。

詳細は、受験講習会要項をご確認ください。

【ミュージック・メディア プレップ・コースの実施について】

東京音楽大学 ミュージック・メディア プレップ・コースを受講し、入学レベルに達していると判定された者は、2027 年度入学試験におけるミュージック・メディアコースの「和声」「伴奏付け」の試験科目のいずれか、または両方の受験が免除となります。

詳細は、ホームページをご確認ください。

【非対面式入学試験の実施について】

器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース)志願者は「対面式」と「非対面式(実技の動画審査およびオンライン面接)」から選択することが可能です。ただし、実技と面接以外の試験科目は対面式での受験となります。

非対面式を選択する場合、パソコン・スマートフォン・タブレットいずれかの機器が必要です。

※「非対面式」で受験する場合の面接は Zoom で行います。

※パソコンの場合は、カメラ・マイク・スピーカーが内蔵または付属されている機種を使用してください。

※イヤホンまたはヘッドフォンを用意してください。

※曲目記入票記入の際は、総時間には曲間を含めず、各曲の演奏時間の合計時間を書くこと。

4. 入学検定料

出願期間内に Web 出願サイトから決済手続きをしてください。お支払い完了後に決済完了メールが送信されます。

募集専攻	コース・楽器	検定料
声楽専攻	●声楽芸術	38,000 円
器楽専攻	●ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース、チェンバロ、オルガン	
	●ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ、クラシックギター	
	●フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、	
	●ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ、ユーフォニアム	
	●打楽器	38,000 円
作曲指揮専攻	●作曲「芸術音楽コース」 ●作曲「ミュージック・メディアコース」 ●指揮	
音楽文化教育専攻		
ミュージック・リベラルアーツ専攻		
吹奏楽アカデミー専攻		
ミュージックビジネス・テクノロジー専攻		20,000 円

5. 日程一覧

- 試験会場・日程の詳細は、試験初日の3日前までに、メール等でお知らせします。
試験日時・会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。なお、期日を過ぎてもメールが届かない場合のみ、迷惑メールフォルダをご確認の上、入試課までご連絡ください。
- 器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)、ミュージック・リベラルアーツ専攻 B 課題(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス) 志願者は、入学試験期間中に伴奏合わせを行います。
- 器楽専攻(チェンバロ、オルガン)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(チェンバロ、オルガン) 志願者は、入学試験期間中に事前練習を行います。
- 合否は、Web 出願サイトにて発表します。電話等による問い合わせには応じません。

【春学期入学者】

実施専攻	全専攻
出願期間	2026年9月4日(金)～9月11日(金) 消印有効
試験期間	2026年10月2日(金)～10月4日(日)
合格発表	2026年11月2日(月)15:00～11月4日(水)17:00
入学手続期間	2026年11月5日(木)～11月12日(木) 消印有効

【秋学期入学者】

実施専攻	ミュージック・リベラルアーツ専攻(A 日程)	ミュージック・リベラルアーツ専攻(B 日程)
出願期間	2027年1月6日(水)～1月18日(月) 消印有効	2027年2月27日(土)～3月5日(金) 消印有効
試験期間	2027年2月16日(火)～2月20日(土) ^{注1}	2027年3月16日(火)～3月17日(水) ^{注2}
合格発表	2027年2月26日(金)15:00～ 2月28日(日)17:00	2027年3月18日(木)15:00～ 3月20日(土)17:00
入学手続期間	2027年2月27日(土)～3月5日(金) 消印有効	2027年3月19日(金)～3月24日(水) 消印有効

注1 A 日程のミュージック・リベラルアーツ専攻(指揮)の一部の試験は2月21日(日)に実施する場合があります。

注2 B 日程の一部の試験は3月15日(月)に実施する場合があります。

6. 出願手続

(1) 出願の流れ

出願方法は Web 出願のみとなります。本学ホームページの「入試案内(学部)」にある「出願ガイド」内の「出願情報の登録」より、下記の手順に沿って出願を行ってください。

※出願書類の郵送を終えて出願完了となります。

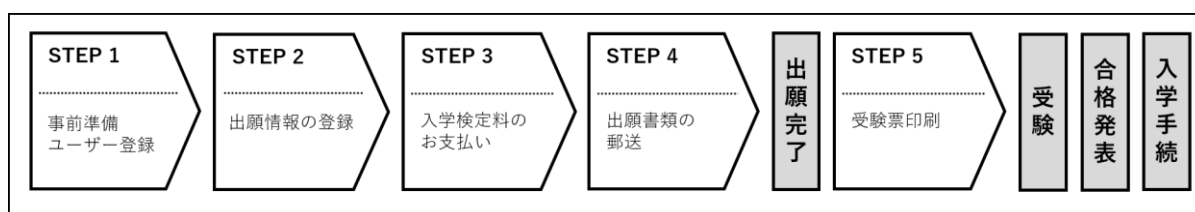
<「出願ガイド」、「出願書類ダウンロード」など Web 出願に必要なページの掲載場所>

出願ガイド

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>



< 出願の流れ >



STEP 1

① Web 出願にあたっての事前準備（詳しくは「出願ガイド」をご覧ください）

- ☐ インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかの機器
- ☐ メールアドレス

各キャリアのメールアドレスを使用する場合は、ドメイン「@contact.mescius.com」「@sbpayment.jp」「@tokyo-ondai.ac.jp」からのメール受信ができるように設定を行ってください。
入学試験用に新たに作成される場合はフリーアドレス(@yahoo.co.jp や@gmail.com 等)の取得を推奨します。

- ☐ プリンター*
- ☐ PDF 表示・印刷ソフトウェア
- ☐ 本人写真(カラー写真データ)

* 自宅にプリンターがない場合、コンビニエンスストア等のマルチコピー機を使用してください。

② 「出願ガイド」からユーザー登録を行う

同サイト内の「Web 出願サイトはこちら」からユーザー登録を行ってください。

※外国籍の方はパスポート、在留カードあるいは住民票に記載の氏名を姓 (Family Name) 名 (First Name) の順に**アルファベット**で入力してください(**漢字は不可**)。ただし、在留カードあるいは住民票の氏名表記が漢字のみの場合は、漢字での入力も可能です。

フリガナについては、通常使用する読みをカタカナで入力してください。

※今年度本学受験講習会等で登録をしている方は再登録不要です。

※昨年度以前、メールアドレス登録画面で「☐ 来年度もこのメールアドレスを利用する」にチェックを入れた場合は再登録不要です。

(「出願ガイド」: <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/webentry/>)

③ 出願書類を確認・準備する

募集要項に記載されている必要な書類を確認・準備してください。

STEP 2

「出願ガイド」から出願登録を行う

募集要項、「出願ガイド」を確認した上で、同サイト内の「Web 出願サイトはこちら」から出願登録を行ってください。

STEP 3

入学検定料のお支払い

「コンビニエンスストア」、「クレジットカード」、「Pay-easy」で期限までに検定料をお支払いください。

※検定料のほかに支払手数料が必要です。

STEP 4

出願書類の印刷・記入および出願書類郵送

① Web 出願サイトから志願票・宛名ラベルをダウンロードし、ページの拡大縮小はせずに A4 サイズで印刷してください。

② 本学ホームページ「入試案内(学部)」から「出願書類ダウンロード」を選択し、受験する入学試験の必要書類を印刷・記入してください。「出願書類チェックリスト」を使用して、出願書類がすべて揃っているか確認し、他の書類と一緒に提出してください。

(「出願書類ダウンロード」: <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>)

③ レターパックライトを使用して、表面に宛名ラベルを貼り、出願書類を郵送してください。

※レターパックはポスト投函できますが、出願期限最終日に郵送する場合は、郵便局の窓口に出すことをお勧めします。

郵送をもって出願完了となります。

※海外から日本への郵便到着に不安がある方は、事前に提出書類の PDF をメール添付やファイル送信サービスにて本募集要項最終ページ記載の「問い合わせ先」のメールアドレスに送付することができます。ただし、PDF のメール送付だけでは、出願受付はできませんので必ず出願期間内に郵送してください。

STEP 5

受験票の印刷

東京音楽大学から「受験票印刷のお知らせメール」*が届いたら、受験票の記載事項が志願票に入力した内容と一致しているか確認し、メールの案内に従って「受験票」を印刷してください。

試験日程詳細は別途メールにて送信します。内容をご確認の上、試験会場にお越しください。

受験票は、試験当日持参してください。

※メールが届かない場合は、Web 出願サイトにログインし「受験票印刷」から印刷してください。

(2) 出願書類一覧

以下の該当する書類を一括して、宛名ラベルを貼付けの上、「レターパックライト」で郵送してください。なお、以下の書類は「A.Web 出願サイト」または「B.出願書類ダウンロード」よりダウンロードし印刷してください。

(「出願ガイド」内「Web 出願サイトはこちら」からアクセス)

A. Web 出願サイト(ユーザー登録・出願情報の登録、志願票・宛名ラベル印刷)

<https://lsg.mescius.com/tokyo-ondai/App/Account/login>



B. 出願書類ダウンロード

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/examinee/exam>



①出願書類 1～2 は上記 A のURLから印刷してください。

	出願書類	対象	注意事項
1	志願票	全専攻	検定料支払い手続き完了後印刷してください。 (拡大・縮小せずA4で印刷) ※カラー印刷してください。
2	宛名ラベル		日本国内から書類を発送する場合はレターパックに 貼り付けてください。 (拡大・縮小せずA4で印刷) ※カラー印刷してください。

②出願書類 3～8 は上記BのURLから外国人留学生選抜の様式を印刷してください。

	出願書類	対象	注意事項
3	曲目記入票 「専攻実技」	声楽専攻、器楽専攻※、作曲 指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」、指揮)、 音楽文化教育専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻※、 吹奏楽アカデミー専攻	志望する専攻の様式より、該当するものを提出してください。 ※実技試験の曲目がすべて指定されている以下の専攻(楽器)は提出不要です。 ・器楽専攻/ミュージック・リベラルアーツ専攻(B)課題 (フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、トロンボーン、 チューバ、打楽器(ティンパニ、小太鼓) ※器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作 コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、 ピアノ演奏家コース)志願者は「対面式」「非対面式」 の様式より該当するものを提出してください。
4	曲目記入票 「副科実技(ピアノ)」	声楽専攻、器楽専攻(オル ガン、弦楽器、管打楽器)、 作曲指揮専攻(作曲「芸術 音楽コース」、指揮)、吹奏 楽アカデミー専攻(副科実技 (ピアノ)選択者)	
5	個人調査書	全専攻	【学歴】: 小学校入学から現在にいたるまでの学歴 をすべて記入してください。専門学校、大学等の 在籍歴もすべて記入してください。日本語学校、 予備校、塾など、日本の大学進学のために通学し た教育機関も、日本国内外問わず、漏れなく記入 してください。学校名は、証明書等に記載される正 式名称を記入してください。 入学年月・卒業年月は証明書に記載されたもの と同様の年月を記入してください。 【現在在学中の学校】: 出願時点で学校に通って いる場合は学校名、所在地、電話番号を記入し てください。出願時点で学校に通わず、留学準備 中の場合は、「 ☐ 留学準備中」の欄にチェック (✓)してください。 【職歴】: 現在までの職歴(兵役を含む)について 年代順にすべて記入してください。アルバイトは 含みません。 【志望動機】: 必ず記入してください。 ※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は日本語 または英語で記入してください。

6	履歴書	ミュージック・リベラルアーツ専攻	日本語または英語で記入してください。
7	同意書	器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース)の「非対面式」志願者	
8	出願書類チェックリスト	全専攻	出願書類を郵送する前に各書類が揃っているかチェックし、出願書類と共に提出してください。

③出願書類 9～19 は志願者本人が作成したもの、または高等学校等が発行したものを提出してください。

	出願書類	対象	注意事項
9	演奏実技動画	器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース)の「非対面式」志願者	動画提出期間および提出方法詳細は、ホームページ「入試案内(学部)」の「演奏実技動画の撮影および提出方法について」を参照してください。
10	出身高等学校の卒業(見込)証明書	全専攻	「(3)卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項」を参照し、提出してください。出願資格3.(5)により出願する者は、当該資格取得の証明書および成績証明書(英語または日本語)を提出してください。
11	出身高等学校の成績証明書		
12	日本語教育機関の成績証明書・出席証明書	日本語教育機関に在籍中または修了した外国籍志願者	日本国内の日本語教育機関(日本語学校、留学生別科、専門学校等)に在籍中または修了した方は、当該教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。 ※複数の日本語教育機関に在籍または修了した方は、在籍・修了したすべての教育機関が発行する成績証明書および出席状況証明書の原本を提出してください。 ※証明書は3か月以内に発行されたものに限りです。
13	パスポートのコピー	日本国外在住の外国籍志願者	氏名・生年月日・パスポート番号・写真・有効期限のページをA4サイズ of 用紙にコピーして提出してください。ビザのページではありません。
14	在留カードのコピーまたは住民票	日本国内在住の外国籍志願者	出願時に有効な在留カードのコピーまたは住民票を提出してください。 ※在留カードのコピーを提出する場合は、裏面に記載事項がなくても、必ず表・裏両面をA4サイズの用紙にコピーしてください。 ※住民票を提出する場合は、在留資格・在留期間・在留期間満了日の記載を含むもので、出願時の3か月以内に発行されたものを提出してください。
15	日本語能力の証明書	全専攻	該当者は、日本語能力の証明書を提出してください。 ※ミュージック・リベラルアーツ専攻志願者は以下の日本語能力の証明書を取得している場合のみご提出ください。 ①日本語能力試験(JLPT)の場合は、日本語能力試験N1 またはN2 の「認定結果及び成績に関する証明書」の原本を提出してください。 ※「日本語能力認定書」の提出は必要ありません。 ※日本語能力試験合格証明書の発行が出願期間に間に合わない場合、合格したことがわかるもの(合格画面のスクリーンショット等)の画面を原本の代わりに印刷し、原本をいつまでに提出できるかメモに書いて貼付け、他の出願書類と一緒に郵送にて提出してください。原本は別途郵送してください。 ②日本留学試験(EJU)の場合は、受験票のコピーを提出してください。 ※成績は、有効期間以内(試験日が過去2年以内)、かつ出願期間最終日まで確認ができるものを有効とします。

16	英語資格証明書	全専攻	英語外部試験利用者は合格証明書の原本を提出してください(「12. 出願時の英語資格・検定試験について」参照)。 ※コピー不可。証明書・合格証等は返却しません。 ※IELTS または TOEFL iBT を利用する場合は、電子スコアの提出も可能です。出願時に Test Report Form または Test Taker Score Report の原本またはコピーを提出してください。TOEFL iBT の本学の機関コードは「B988」です。
17	伴奏譜	声楽専攻、器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)、音楽文化教育専攻(声楽)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(声楽(A)(B)課題、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの(B)課題)	伴奏譜を出願書類に同封してください。伴奏譜の作成方法は「伴奏譜の提出について」を参照してください。
18	創作曲楽譜	器楽専攻(ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(創作)	創作曲楽譜を出願書類に同封してください。創作曲楽譜の作成方法は「創作曲楽譜について」を参照してください。
19	認定証のコピー	声楽専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻、音楽文化教育専攻、吹奏楽アカデミー専攻	以下の①、②の対象者は、認定証のコピーを提出することにより当該科目の試験を免除します。 ①本学受験講習会にて実施する認定試験で認定された者 対象科目: 楽典、聴音、新曲視唱 ②本学ミュージック・メディア プレップコースで、認定された者 対象科目: 作曲指揮専攻 作曲「ミュージック・メディアコース」の和声、伴奏付け

【注意】

- ※外国語(英語を除く)で書かれた証明書や文書等がある場合、日本語訳または英語訳および公証書を添付してください。公証書は大使館等の公的な機関で発行されたものに限り、証明書の提出方法等について「(3)卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項」をご参照ください。
- ※出願後の提出書類の変更は認めません。また、提出された書類や検定料等は返還しません。ただし、住所・氏名・電話番号に変更があった場合は、すみやかに入試課へご連絡ください。
- ※出願書類がすべて揃っていない場合、出願期間を過ぎたものは受け付けできませんので注意してください。

(3) 卒業証明書・成績証明書提出上の注意事項

①中国の高等学校を卒業した方

[卒業証明書]

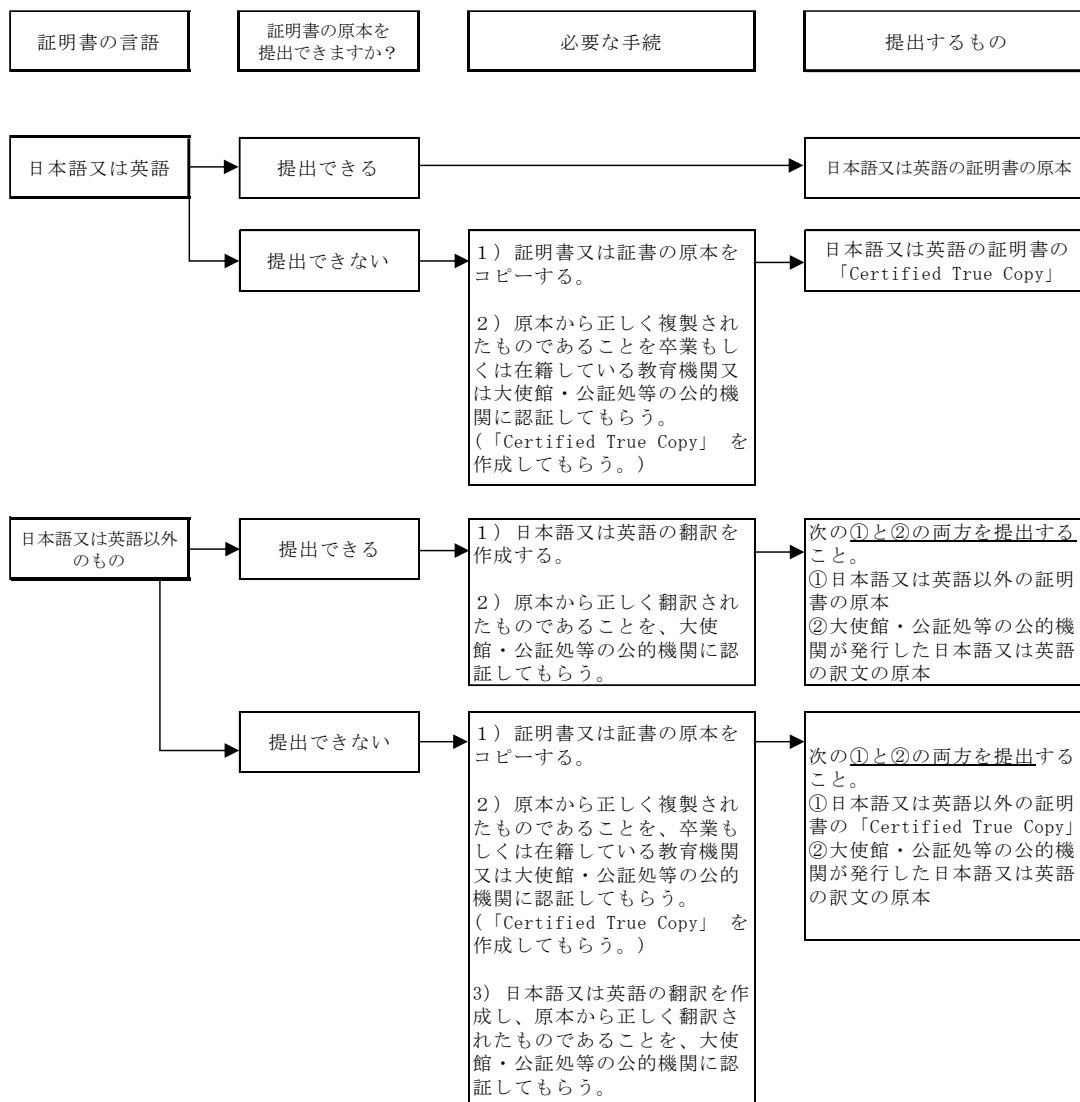
- ・中国教育部学歴認証センターまたは、中国教育部学歴認証センター日本代理機構(<http://www.chsi.jp/>)が発行する英文の「学歴認証報告書」を提出してください。
- ・高等学校発行の証明書やその翻訳は出願書類として認められません。
- ・「学歴認証報告書」は、CHSI から直接「nyushi@tokyo-ondai.ac.jp」にメールで届くよう、手続きを行ってください。英文以外の認証報告書や、出願者本人が受領し、本学へ転送した認証書は無効とします。
- ・認証機関の発行の遅れによって提出が間に合わない場合でも出願が認められない可能性があります。発行まで1か月程度かかるため、時間に余裕をもって発行申請を行ってください。
- ・教育制度(国際部等)により、「学歴認証報告書」が提出できない場合は、①高等学校が発行する卒業証明書、②本学指定の「CHSI 学歴認証報告書不発行申請書」を「B. 出願書類ダウンロード」より印刷・記入の上、提出してください。
- ・高等学校卒業見込みの方は、高等学校が発行する卒業見込み証明書を提出し、卒業後「学歴認証報告書」を提出してください。

[成績証明書]

- ・高等学校が発行する成績証明書の原本を提出してください。注意事項は「②中国以外的高等学校を卒業した方」と同様です。

②中国以外的高等学校を卒業した方

- ・卒業証明書、成績証明書等の証明書類は原本(卒業もしくは在籍している教育機関が発行し、証明した書類)、または教育機関・大使館・公証処等の公的機関より原本からの正しい複製であるという証明(Certified True Copy)を受けた書類を提出してください。
- ・日本語または英語以外の言語で記載された証明書は、大使館・公証処等の公的機関または、翻訳者としての資格を有する翻訳者による翻訳文を原本に添付してください。
- ・すべての提出書類の氏名・生年月日等はパスポートの記載と一致しているものを提出してください。



(4) 提出先

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1 東京音楽大学入試課 電話 03-6455-2754

7. 試験会場

- ・東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区上目黒 1-9-1)
 - ・東京音楽大学 池袋キャンパス(東京都豊島区南池袋 3-4-5)
- ※試験会場・日程の詳細はメールにて通知する案内を参照してください。

<アクセス>



<受験上・修学上の配慮を希望する志願者について>

疾病や障がいなどにより受験時や入学後の修学において特別な配慮が必要な場合、個別の状況に応じて必要かつ合理的な配慮を検討し、適切な支援を行っております。

合理的な配慮を希望される方は、URLもしくはQRコードより内容をご確認の上、申請を期日までに行ってください。

[URL]

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/43807.php>



[期日]

春学期入学者	2026年7月14日(火)必着
秋学期入学者(A日程)	2026年11月30日(月)必着
秋学期入学者(B日程)	2027年1月6日(水)必着

<成績開示について>

入学試験を受験して志望専攻に不合格であった者から開示請求があった場合、下記のとおり行います。

※器楽専攻(ピアノ演奏家コース)またはミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ演奏家コース)の受験結果により、器楽専攻(ピアノ)またはミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ)合格となった方は対象外です。

[開示方法]

本学が申請書を受理後、開示内容を記載した書面を受験者本人宛に特定記録郵便にて送付します。

なお、郵送が可能な日本国内在住の受験者本人のみ申請いただけます。

[開示申請期間]

春学期入学者	2026年11月3日(火)～10日(火)必着
秋学期入学者(A日程)	2027年2月27日(土)～3月5日(金)必着
秋学期入学者(B日程)	2027年3月19日(金)～24日(水)必着

[開示の請求方法]

受験票、返信用封筒(返信先を明記し、320円切手を貼付した定型封筒)および申請書*を同封の上、「入学試験成績開示請求」と朱書きをして、特定記録郵便により入試課へ送付してください。

*申請書には次の(1)から(3)の事項を記載してください(様式自由)。

(1)氏名 (2)受験番号 (3)出願の専攻・コース・楽器

[宛先]

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1 東京音楽大学入試課

TEL 03-6455-2754

<学校保健法で出席の停止が求められている感染症に関する注意事項について>

学校保健安全法で出席停止が定められている感染症(新型コロナウイルス・インフルエンザ・はしか等)にかかり治癒していない場合、その感染症が他の受験者や試験監督者等に広がるおそれがありますので、入学試験を受験することはできません。また、試験当日の検温により発熱があった場合や、通常とは異なる体調不良があり感染症に罹患している可能性がある場合も、受験をご遠慮願います。ただし、病状により医師が伝染の恐れがないと判断した場合は、この限りではありません。

上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として、追試験等の特別措置および入学検定料の返還は行いません。試験当日の体調には十分に注意してください。

なお、感染状況等により事情が変わった場合には、改めてホームページ等でお知らせします。

8. 入学手続

合格者には、**出願時に登録した住所に入学手続書類を郵送します。**

登録した住所以外に郵送を希望する場合は、合格発表期間前に入試課へご連絡ください。

入学手続の流れは以下のとおりです。

【1】入学金・学費等の納入 → **【2】入学手続書類郵送** → **【3】入学許可**

(1)入学金・学費等の納入・期間

「5. 日程一覧」に掲げる入学手続期間内に入学金・学費等を納入するとともに、下記書類を入試課へ簡易書留またはレターパックにて郵送してください。最終日の消印有効。

※入学金・学費等の納入期日は、必ず大学の口座に入金される日であること。

※上記の期間内に手続を完了しない者は、入学の意志がないものとして合格を取り消します。

(2)入学手続に必要な書類

①誓約書・個人情報の取扱いに関する同意書(本学所定の用紙)

②住民票または住民票記載事項証明書(3か月以内のもの)

※日本国外在住者は、渡日後、速やかに市区町村で住民登録を行い、住民票を提出してください。「短期滞在」ビザでは住民登録はできませんので、必ず「留学」ビザに変更してから住民登録を行ってください。

③高等学校卒業証明書(高等学校卒業以外の者は資格証明書、高等学校卒業程度認定試験および大学入学資格検定合格者は合格証明書)

※2027年3月または9月卒業見込みの者は、卒業後提出

④学生証用写真

⑤その他本学が提出を指示したもの

※詳細は入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

※入学までに大学入学資格を満たせなかった場合は、その旨をすみやかに入試課にご連絡ください。

※提出された書類の記載事項に虚偽が判明した場合、合格または入学を取り消します。

(3) 入学許可

手続きを完了した者には、入学許可書を交付します。

(4) 入学辞退

入学を辞退する場合は、2027年3月30日(火)11:30までに入試課に申し出てください。

なお、納入済みの入学金はいかなる理由があっても返還しません。

手続方法の詳細は、入学手続書類に同封される案内をご確認ください。

9. 学費その他の納入金(2026年度入学者実績・参考)

(1) 学費

声乐専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻(芸術音楽コース、指揮)、ミュージック・リベラルアーツ専攻、吹奏楽アカデミー専攻

納入時期	入学金	授業料	施設等維持費(※1)	合計
春学期	300,000 円	743,500 円	277,500 円	1,321,000 円
秋学期	—	743,500 円	277,500 円	1,021,000 円

作曲指揮専攻「ミュージック・メディアコース」

納入時期	入学金	授業料	施設等維持費(※1)	合計
春学期	300,000 円	788,500 円	277,500 円	1,366,000 円
秋学期	—	788,500 円	277,500 円	1,066,000 円

音楽文化教育専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

納入時期	入学金	授業料	施設等維持費(※1)	合計
春学期	300,000 円	543,500 円	277,500 円	1,121,000 円
秋学期	—	543,500 円	277,500 円	821,000 円

※1 2年次より春学期 282,500 円、秋学期 282,500 円

(2) 学費以外の諸費用

納入時期	後援会入会金 (入学時)	後援会費 (毎年)	校友会費(4年次)	卒業記念費(4年次)
春学期	10,000 円	5,000 円	20,000 円	10,000 円
秋学期	—	5,000 円	—	—

(3) その他(履修者のみ)

教職課程費 (2年次以降毎年度)	第二副科実技 (年額)	音楽実技Ⅰ～Ⅷ (年額)※2
50,000 円	100,000 円	400,000 円

※2 音楽文化教育専攻(卒業に必要な単位数に含まれる)

ミュージックビジネス・テクノロジー専攻(卒業に必要な単位数に含まれない)

本学の学費については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/about/expenses>



学費および学費の取扱いは、今後変更となる場合があります。

モバイル PC 必携化について(対象:ミュージックビジネス・テクノロジー専攻を除く全専攻の方)

本学では一部の授業で PC が必須になるため、個人所有のモバイル PC を大学の授業等で利用する BYOD (Bring Your Own Device: PC の必携化)を実施しており、ご自身で PC と自宅のネットワーク環境をご用意いただく必要があります。

なお、求められるスペック等については入学後に各専攻でご案内いたしますので、入学前に購入を急ぐ必要はありません。

10. 在留資格「留学」の取得について

(1) 日本に在留する在留資格を有している場合

① 「留学」の在留資格を有している者

在留期間更新許可申請をしてください。在留期間更新許可申請は、在留期間が満了する3か月前から可能です。ただし、在留資格に該当する活動を行うことなく3か月以上滞在すると、在留資格取り消しの対象となりますのでご注意ください。

また、在留期間が本学入学後まで残っている場合にも、所属する学校に変更があった場合には、変更後14日以内に法務省東京出入国在留管理局へ「所属機関に関する届出」を提出することが義務付けられています。

② 「留学」以外の在留資格で日本に滞在していて、在留資格「留学」の取得を希望する者

在留資格変更申請をしてください。入学手続完了時に「入学許可書」を発行します。この「入学許可書」を使用し、日本国内で在留資格を変更することが可能です。ただし、「短期滞在」の在留資格で日本に入国している者は、原則として日本国内で在留資格の変更は認められていないので、一度日本国外へ出て「留学」ビザを取得しなければならなくなることもあります。

③ 「留学」以外の長期滞在可能な在留資格を有する者

在留資格「定住」「家族滞在」等を有する方は、在留資格「留学」への資格変更の義務はありません。ただし、留学生対象の各種補助制度への申込および留学生対象の授業の履修はできません。必要に応じて在留資格の更新・変更を行ってください。

更新・変更を行う場合は、現在持っている在留資格の種類により申請方法・書類が異なりますので、最寄りの出入国在留管理局へ問い合わせてください。

[注] 本学入学前に、日本において日本語教育施設または専修学校（日本語学校、大学・短期大学の日本語別科、その他各種専門学校等）に在籍している者は、在留期間更新・資格変更申請の際に、法務省東京出入国在留管理局から、在籍していた教育機関が交付する出席状況証明書の提出を求められます。在籍状況に問題がある場合は、不許可となる場合があります。

(2) 日本に在留する資格を有していない場合

本国の日本大使館または領事館にて「留学」ビザ発給の申請を行ってください。あらかじめ本人または代理人が、法務省東京出入国在留管理局から「在留資格認定証明書（Certificate of Eligibility=COE）」を取得し、これを使用して「留学」ビザ発給の申請を行うと、審査が円滑に行われるとされています。日本に親族や経費支弁者または奨学金支給者がいる場合は、「在留資格認定証明書」交付の代理申請を依頼してください。代理申請を本学が行うことを希望する者は、合格者に案内する必要書類を入学手続時に提出してください。

[注] 在留資格認定証明書（COE）の取得には通常 2～3 か月程度、COE 取得後の在外公館における「留学」査証（ビザ）の発給には約 3 週間～1 か月程度を要します。

入試日程や入学手続きの時期によっては、在留手続きが授業開始日に間に合わず、日本への渡航が遅れる可能性があります。出願を検討する際は、在留手続きに要する期間を十分に考慮し、余裕をもって申請してください。

また、入学時まで渡航が完了しない場合や、入学後に一時帰国が必要となる場合があります。その場合、授業が欠席となり単位取得に影響することや、高額な渡航費用が生じる可能性があります。

[注] ビザ取得の審査は法務省が行うため、不許可となった場合、大学は一切責任を負いません。

[注] 留学生を対象とする授業料補助および大部分の各種奨学金は、在留資格「留学」の者を対象としています。

11. 専攻別試験科目

試験科目		英語（資格）	英語（本学が行う試験）	数学	専攻別実技試験	小論文（注3）	面接・口述試験（注4）	面接	副科実技（ピアノ）	コールドューブング	新曲視唱（注5）	初見演奏	聴音（和音・旋律）（注5）	聴音（四声体と和声・旋律）（注5）	楽典（注5）	創作	備考	
専攻・コース名		配点	(注1)	(注2)	各100点			ABC (3段階)	各50点						ABC (3段階)			
声楽	声楽芸術		選択①	選択①		○	○		○	○	○	選択②		選択②		○		
器楽	ピアノ・ピアノ演奏家コース		選択①	選択①		○	○		○			○			○	○		
	ピアノ・創作コース		選択①	選択①		○	○		○			○			○	○	○	専攻別実技試験はピアノ・創作コースのピアノ課題
	チェンバロ		選択①	選択①		○	○		○			○			○	○		
	オルガン		選択①	選択①		○	○		○	○		○			○	○		
	弦・管・打楽器		選択①	選択①		○	○		○	○		○		○		○		
作曲指揮	作曲「芸術音楽コース」		選択①	選択①		○	○			○		○			○	○		専攻別実技試験に面接を含む
	作曲「ミュージック・メディアコース」 ^(注6)		選択①	選択①		○						○		○		○		専攻別実技試験に小論文、面接を含む
	指揮		選択①	選択①		○				○		○			○	○		専攻別実技試験に小論文、面接を含む
音楽文化教育			選択①	選択①		○	○	○				選択②		選択②		選択②		
ミュージック・リベラルアーツ			選択①	選択①		○		○										
吹奏楽アカデミー			選択①	選択①		○	○	○		選択②		選択②	選択②	選択②		○		
ミュージックビジネス・テクノロジー			選択①	選択①	選択①		○	○										

※「選択」については、各専攻で同一番号の「選択」より1科目(音楽文化教育専攻の「選択②」のみ2科目)を選んで受験すること。
(注1) 文部科学省が公表した CEFR との対照表に基づき、本学独自に換算する。
(注2) 配点 100 点: 音楽文化教育専攻、ミュージック・リベラルアーツ専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻、50 点: その他の専攻
(注3) ◆ 声楽専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻(作曲「芸術音楽コース」)、吹奏楽アカデミー専攻: 日本語による小論文(共通課題)
◆ 音楽文化教育専攻、作曲指揮専攻(作曲「ミュージック・メディアコース」、指揮)、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻: 専攻別小論文課題
(注4) 面接・口述試験の内容は専攻によって異なる。
(注5) 今年度本学受験講習会にて実施の認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。
(注6) 今年度本学ミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での「和声」・「伴奏付け」の科目のいずれか、または両方の試験を免除する。

12. 出願時の英語資格・検定試験について

本学が行う試験(英語)に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できます。
出願時に該当資格試験証明書の原本を1種類提出することが必要です。取得時期は問いません。ただし、各試験の実施団体が有効期限や公式証明書を再発行できる期限を定めている場合があります。

名称	スコア	
	声楽専攻、器楽専攻、作曲指揮専攻、音楽文化教育専攻、吹奏楽アカデミー専攻、ミュージックビジネス・テクノロジー専攻	ミュージック・リベラルアーツ専攻
ケンブリッジ英語検定	120 以上	140 以上
実用英語技能検定(S-CBT 含む)	準 2 級以上	2 級以上
GTEC(アセスメント版を除く)	680 以上	930 以上
IELTS(Academic)※	4.0 以上	4.5 以上
TEAP	135 以上	225 以上
TOEFL iBT®※	2.5 以上(2026 年 1 月 21 日以降取得)/ 42 以上(2026 年 1 月 20 日まで取得)	3.5 以上(2026 年 1 月 21 日以降取得)/ 52 以上(2026 年 1 月 20 日まで取得)
TOEIC®(L&R/S&W) (公開テストのみ) ※※	625 以上	1150 以上
TOEIC Bridge®(L&R/S&W) (公開テストのみ) ※※	129 以上	170 以上

※IELTS および TOEFL iBT は電子スコア利用可能

※※TOEIC および TOEIC Bridge (L&R/ S&W)については、S&W のスコアを 2.5 倍にして合算

13. 入学試験科目

1. 声楽専攻

声楽芸術

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 日本語による小論文(60分)

3. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 新曲視唱・聴音より1科目選択

(1) 新曲視唱: 8小節程度の旋律を1曲

別室で1～2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

(2) 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)……各専攻共通1題および専攻別1題
和音聴音……………高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. コールユーブンゲン

原書番号 No.48～51、56～59の中から当日1曲指定する(『全訳コールユーブンゲン』大阪開成館)。

移動ド唱法または固定ド唱法のいずれでも可。

試験室においてピアノにより和音および開始音が与えられる。

6. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度はJ=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。

本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) 自由曲: ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

7. 専攻実技および面接

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。演奏後、日本語による面接を行う。

◇課題曲

(1) 課題曲：次の課題曲表から 3 曲を選ぶこと。その中から当日 1 曲を指定する。

※歌詞は原語で暗譜で歌うこと。

※演奏の途中で打ち切る場合がある。

※() 内のアルファベットは調性を表す。これら以外の調で歌う場合は移調譜を出願書類と共に提出すること。

※伴奏者は大学が用意する。

No.	曲 名	作曲者
①	Già il sole dal Gange (B, As, G)	A. Scarlatti
②	Se tu della mia morte (g, f, e)	A. Scarlatti
③	Sento nel core (g, f, es)	A. Scarlatti
④	Lasciar d'amarti (g, f, d)	F. Gasparini
⑤	Star vicino (A, B, G)	L. Mancina (伝 S.Rosa)
⑥	Sebben, crudele (e, d, c)	A. Caldara
⑦	Vergin, tutto amor (d, c, h)	F. Durante
⑧	Nina (g, fis, e, d)	作曲者不詳
⑨	Nel cor più non mi sento (F, G)	G. Paisiello
⑩	Sogno (B, As, Ges)	F. Tosti
⑪	An Chloe (Es, C)	W. A. Mozart
⑫	Ich liebe dich (G, F)	L. v. Beethoven
⑬	An die Musik (D, C, B)	F. Schubert
⑭	Geheimes (As, F, Es, D)	F. Schubert
⑮	Lachen und Weinen (As, F, E)	F. Schubert
⑯	Die Lotosblume (F, Es, Des)	R. Schumann
⑰	Widmung (As, Ges, F)	R. Schumann
⑱	Dein blaues Auge (Es, D)	J. Brahms
⑲	Sonntag (G, F, Es)	J. Brahms
⑳	Zueignung (C, A, G)	R. Strauss
㉑	秋の月 [山田耕筰 編曲] (h)	滝 廉太郎
㉒	荒城の月 [山田耕筰 編曲](1,2 番) (d, c)	滝 廉太郎
㉓	母 (As, G, F)	小松 耕輔
㉔	この道 (1,2 番) (E, D)	山田 耕筰
㉕	北秋の『沙羅』より (D, Des)	信時 潔
㉖	行々子 『沙羅』より (Fis, F)	信時 潔
㉗	浜千鳥 (Es, C)	弘田 龍太郎
㉘	浜辺の歌 (1,2 番) (As, F)	成田 為三
㉙	ゆりかご (E, D)	平井 康三郎
㉚	むこうむこう (F)	中田 喜直

(2) 自由曲：1 曲 (4 分以内)。ただし、(1) の課題曲表以外の曲目とする。

※歌詞は原語で暗譜で歌うこと。

※日本歌曲、ミュージカルナンバー可*。

※オペラ・アリアは原調で歌うこと。

※伴奏譜を出願書類と共に提出のこと(前奏、間奏、後奏のカット可。その他の部分のカットが記載されている場合は、本学で確認し、内容によっては訂正を求めることがある)。

※伴奏者は大学が用意する。

*ミュージカルナンバーについて

- ・訳詞による歌唱可。言語は限定しない。
- ・マイクの使用不可。
- ・伴奏譜は出版譜に限る。

2. 器楽専攻

鍵盤楽器

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 日本語による小論文(60分)

3. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

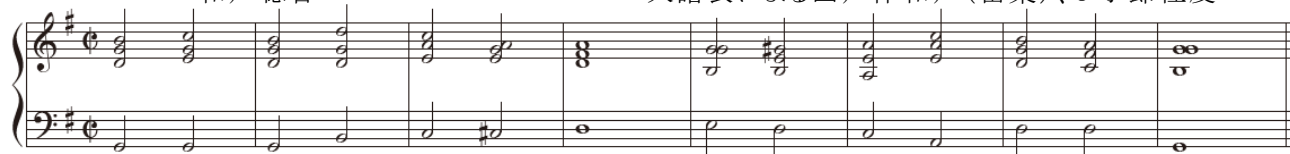
※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)……

和声聴音 ……………

各専攻共通1題および専攻別1題

大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

6. 副科実技(ピアノ) ※オルガン志願者のみ

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)

7. 専攻実技および面接

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。また、別室にて、日本語による面接を行う。

器楽専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース、ピアノ・創作コース)受験者で「非対面式」で受験する場合の面接はZoomで行う。詳細は出願締め切り後に個別に連絡する。

◇課題曲

■ピアノ

すべて暗譜で演奏すること。
次のa課題またはb課題を選択すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の2曲(同一作曲家の組み合わせでなくても可)
 - (イ) モシュコフスキー Op. 72
 - (ロ) クレメンティ(タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと)
 - (ハ) チェルニーOp. 740 (50番練習曲)
 - (ニ) モシェレス
 - (ホ) ショパン Op. 10, Op. 25 (Op. 10 No. 6, Op. 25 No. 7を除く)
- (3) 自由曲(自作品は不可。5分以上 8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

b課題

自由曲(自作品は不可。12分以上 17分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

■ピアノ演奏家コース

すべて暗譜で演奏すること。
次のa課題またはb課題を選択すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
※当日各自の抽選でプレリュードまたはフーガのどちらかの演奏になる場合がある。
- (2) ショパン『練習曲集』Op. 10, Op. 25より任意の2曲(Op. 10 No. 6, Op. 25 No. 7を除く)
- (3) 次の①または②を選択すること
 - ①(イ)～(ト)の練習曲集より任意の1曲
 - (イ) リスト
 - (ロ) ドビュッシー
 - (ハ) スクリャービン Op. 8, Op. 42, Op. 65
 - (ニ) ラフマニノフ Op. 33, Op. 39
 - (ホ) プロコフィエフ Op. 2
 - (ヘ) バルトーク Op. 18
 - (ト) リゲティ
 - ②ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのソナタの中から、任意の楽章を1つ
- (4) 自由曲(自作品は不可。12分以上 15分程度。複数曲を演奏する場合は、楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(4)の順で演奏すること。

b課題

自由曲(自作品は不可。25分以上 30分程度。1曲または複数曲の組み合わせでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※器楽専攻(ピアノ演奏家コース)の受験結果により、器楽専攻(ピアノ)に合格となる場合がある。

※器楽専攻(ピアノ)に合格した者は、所定の試験を受験し合格することにより、器楽専攻(ピアノ演奏家コース)に転コースすることができる(詳細は、後述の「14. ピアノ演奏家コースへの転コースについて」を参照)。

■ピアノ・創作コース

1. ピアノ実技

すべて暗譜で演奏すること。

次の a 課題または b 課題を選択すること。

a課題

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意のプレリュードまたはフーガのどちらか
- (2) 次の(イ)～(ホ)の練習曲集より任意の1曲
 - (イ) モシニコフスキー Op.72
 - (ロ) クレメンティ (タウジヒ編による29の練習曲より選択のこと)
 - (ハ) チェルニー Op.740 (50番練習曲)
 - (ニ) モシェレス
 - (ホ) ショパン Op.10, Op.25 (Op.10 No.6, Op.25 No.7を除く)
- (3) 自由曲(自作品は不可。5分以上8分程度。複数曲可。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

b課題

自由曲(自作品は不可。12分以上17分程度。1曲または複数曲の組合せでもよい。楽章や曲目ごとの演奏時間を専攻別曲目記入票に明記すること)
省略は認めない。ただし、繰り返しはその限りではない。

2. 創作

自作の楽譜を1曲、出願書類と共に提出すること。編成および曲の長さは自由とする。

例:ピアノ独奏曲、電子オルガンを含むアンサンブル作品等

■チェンバロ

- (1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
- (2) D. スカルラッティの任意のソナタを1曲
- (3) 通奏低音
『クラヴィス』(現代ギター社刊)pp.80-84 の練習 1～10 のうちから、当日指定されたものを、右手用のガイドなしで演奏する。

※いずれも暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※楽器は二段鍵盤チェンバロ(音域 FF～f3、8'8"4、a1=415)

■オルガン

- (1) J. S. バッハ『オルガン小曲集』(Orgelbüchlein BWV 599-644)から任意の5曲
- (2) 任意のオルガン曲1曲(コラール編曲以外の作品とする)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※アシスタントの要、不要を専攻別曲目記入票に記入すること。

※試験日以前に、レジストレーションのための若干の練習時間を与える。

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 日本語による小論文(60分)

3. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)・・・
和音聴音

各専攻共通1題および専攻別1題
高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

6. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度はJ=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) 自由曲: ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

7. 専攻実技および面接

下記の専攻実技の課題を演奏すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。演奏後、日本語による面接を行う。

◇課題曲

弦楽器

■ヴァイオリン

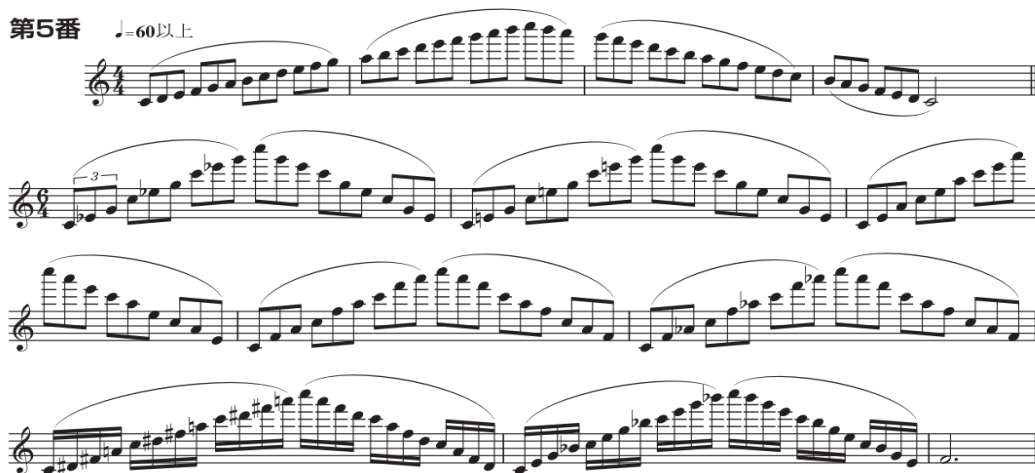
(1) 音階および分散和音

Carl Flesch : Scale system (C. フレッシュ『スケール・システム』より、任意の長調または短調を選び、第5、6、7、8 番を演奏する。運指の指定なし。

①第5 番は冒頭から 12 小節目までを演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上(スラーは下記の C-dur に準ずる)

②第 6,7,8 番は各々冒頭から 4 小節目までを、速やかに続けて演奏する。 $\text{♩}=60$ 以上(スラーは 16 分音符 4 個以上とする。1 小節 2 弓でも可。下記の第 6 番参照)

第5番 $\text{♩}=60$ 以上



第6番 $\text{♩}=60$ 以上



(2) 練習曲

P. Rode、J. Dont (Op.35)、N. Paganini の練習曲、カプリスより任意の 1 曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の 1 曲

※N. Paganini のカプリスについては、No.17, 24 以外は、繰り返しなしで演奏すること。

(3) 任意の協奏曲より第1楽章(カデンツァを含む)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※演奏によりヴィオラに適正がありと認め得る受験者は、ヴィオラで合格となる場合がある。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■ ヴィオラ

(1) 音階および分散和音

Carl Flesch : Scale system より、任意の長調または短調を選び、第5、6 番を演奏する。運指、テンポの指定なし。

① 第5 番は冒頭から 12 小節目までを演奏する。

② 第6 番は冒頭から 4 小節目までを演奏する。(スラーは 16 分音符 4 個以上とする)

第5番



第6番



(2) B. Campagnoli : 41 Caprices (B. カンパニョーリ『41 のカプリース』) から任意の 1 曲、または同程度もしくはそれ以上の難易度の任意の 1 曲

(3) 次の(イ)～(ハ)より任意の 1 曲

(イ) C. Stamitz : ヴィオラ協奏曲ニ長調作品 1 より 第 1 楽章

(ロ) F. Hoffmeister : ヴィオラ協奏曲ニ長調 より 第 1 楽章

(ハ) 上記の(イ)、(ロ)と同程度もしくはそれ以上の曲から 1 曲 (版の指定なし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※ヴァイオリンによる受験可。出願書類の志望欄にヴィオラと記入し、ヴァイオリンの課題で受験すること。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■チェロ

(1) 音階

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。

The musical score is for a cello exercise, consisting of six staves of music. The tempo is marked as quarter note = 40. The score includes various fingerings and bowings indicated by numbers and letters (I, II, III). The first staff starts with a bass clef and a 4/4 time signature. The second staff has a treble clef. The third staff has a bass clef. The fourth staff has a bass clef. The fifth staff has a bass clef. The sixth staff has a bass clef. The score includes various fingerings and bowings indicated by numbers and letters (I, II, III).

(2) 練習曲

次の(イ)～(ハ)より任意の1曲

(イ) D. Popper : Hohe Schule des Violoncellspiels, op. 73 (ポッパー:40 の練習曲)

(ロ) J. L. Dupport : 21 études (デュポール : 21 の練習曲)

(ハ) A. Schroeder : 170 foundation studies for violoncello, 2 (シュレーダー:170 の基礎練習 第2巻)

(3) 任意のチェロ協奏曲より第1楽章または最終楽章(カデンツァなし)

※いずれの課題も暗譜で演奏すること。

※(3)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に限る)。

※(1)～(3)の順で演奏すること。

■コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。



(2) 下記のいずれかを選択すること。

(イ) 任意のソナタより第 1 楽章と第 2 楽章

(ロ) 任意の協奏曲より第 1 楽章または最終楽章

※オーケストラチューニング、暗譜で演奏すること。

※(2)の伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出すること(出版譜に準ずる)。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■ハープ

(1) F. J. Naderman : 7 Sonates progressives, Op.92 より任意の第 1 楽章

(2) 自由曲 (J. L. Dussek のソナタと同程度の難易度の作品)を 1 曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

■クラシックギター

(1) F. Sor または H. Villa-Lobos の練習曲より任意の 1 曲

(2) 自由曲 1 曲

※暗譜で演奏すること。伴奏なし。

※(1)、(2)の順で演奏すること。

木管楽器

■フルート

(1) 音階と分散和音

M. Moyse : Exercices journaliers pour la flûte (M. モイーズ『フルートのための日課練習』)より長音階(A)、短音階(B)、分散三和音(C)を演奏する。演奏箇所は当日指定する。♩ = 60(譜例参照)



(2) Paganini: 24 Caprices Opus 1 (パガニーニ: 24 のカプリス 作品 1)より No. 7(繰り返しなし)

Herman=Wummer 編の International 版(フルート譜)を使用すること

(3) W.A. Mozart: フルード協奏曲第 2 番 二長調 K. 314 より第 1 楽章および第 2 楽章(カデンツァは含まない)。版の指定なし。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(1)(2)(3)それぞれ演奏箇所は当日指定する。

※(3)の伴奏者は大学が用意する(楽譜の提出不要)。前奏は 1 楽章: Solo の 6 小節前より、2 楽章: Solo の 4 小節前より始める。

■オーボエ

(1) 音階

次の A、B いずれかの音型によって長音階と短音階(和声的)を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜で演奏すること。



(2) F. W. Ferling : 48 Etudes, Op.31 (F. W. フェルリンク『48 のエチュード』) No. 1-8 の中から当日指定する。

※(2)は版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■クラリネット

(1) 音階

R. Eichler : Scales for Clarinet より各調の 1 番をスラーで演奏すること。調性は当日指定する。暗譜で演奏すること。

(2) エチュード

① E. Cavallini : 30 Capricci(Ricordi)より No. 17, 19 の 2 曲。演奏箇所は当日指定する。

② C. Rose : 32 Etudes(Leduc または全音楽譜出版社)より No. 19, 21 の 2 曲。

演奏箇所は当日指定する。

(3) 楽曲

C.M.von Weber: Concertino op.26(出版社は問わない)。

前奏は Solo の 3 小節前より始める。

※(2)(3)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(3)の伴奏者は大学で用意する(楽譜の提出不要)。

■ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)を演奏すること。調性、スラー等は当日指定する。暗譜で演奏すること。



(2) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 の No.1-15 より当日2曲を指定する。

(3) J. Weissenborn : Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol.2 の No.22-43 より任意の1曲

※(2)(3)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■サクソフォーン

アルト・サクソフォーンで受験すること。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)をスラーで演奏すること。調性は全調の中から当日指定する。暗譜で演奏すること。繰り返しなし。

音階譜例



(2) F. W. Ferling : 48 études pour tous les saxophones (F. W. フェルリンク『サクソフォンのための48の練習曲』[M. ミュールによる増補改訂版] A. Leduc)より、任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

(3) 自由曲1曲(編曲作品可。抜粋の場合は、楽章等を専攻別曲目記入票に明記すること)

※(2)(3)は暗譜の必要なし。伴奏なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

金管楽器

音階および分散和音

ホルン、トロンボーン、テューバ共通課題

次の例にしたがって、長音階と短音階(和声的または旋律的)を暗譜で演奏すること。調性、音域は当日指定する。



■ホルン

- (1) 音階および分散和音(前掲の譜例参照)

調性、音域は当日指定する。

- (2) W. A. Mozart : ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K.447 より 第1楽章(カデンツァなし)。前奏は Solo の4小節前より始め、それ以降のカットなし。

※(2)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(2)の伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。

■トランペット

- (1) Théo Charlier: 36 études transcendantes (Alphonse Leduc 版) より No.2 “Du style”

- (2) 以下の4曲より1曲を選択し演奏。

①Théo Charlier: Solo de concours (Schott 版)

②Camille Saint-Saëns: Fantaisie en mi bémol (Alphonse Leduc 版)

③Roger Boutry: Trompetunia (Alphonse Leduc 版)

④André Chailleux: Morceau de concours (Alphonse Leduc 版)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(2)の伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。

■トロンボーン

- (1) 音階および分散和音(前掲の譜例参照)

調性、音域は当日指定する。

- (2) 次のトロンボーン課題またはバス・トロンボーン課題を選択すること。

●トロンボーン

① J. Rochut: Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer) よりNo.8

② G. Kopprasch: 60 Etudes for Trombone (G. コプラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』(全音楽譜)よりNo.15, No.40)

※繰り返しなし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

●バス・トロンボーン

① J. Rochut: Melodious Etudes for Trombone. Book 1. Edited by Alan Raph (C. Fischer) よりNo.1をオクターブ下で演奏すること。

② O. Blume: 36 Studies for Trombone with F Attachment (C. Fischer) よりNo.5, 25

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■チューバ

- (1) 音階および分散和音（前掲の譜例参照）
調性、音域は当日指定する。
- (2) 練習曲
以下の中から当日指定する。いずれも途中でカットする場合がある。
G. Kopprasch: 60 Selected Studies(R. King Music) No.10, 12, 16, 20, 23
M. Bordogni: 43 bel canto studies(R. King Music) No.1, 4, 7

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■ユーフォニアム

- (1) 後藤文夫:無伴奏ユーフォニアムのための 24 のカプリスより No.14
(風の音ミュージックパブリッシング)
- (2) 以下の4曲より1曲を選択し演奏。
 - ①J.B.Arban: Variation on a Song "Vois-tu la neige qui brille (The Beautiful Snow) (「輝く雪」の歌による変奏曲) 前奏なし。(Arban's Complete Method 所収)
伴奏者使用楽譜は J.B.アーバン『12 の幻想曲とアリア』No. 5 (IRS Collection、全音楽譜)
 - ②P.V.De la Nux: Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern Music Company)
 - ③B.Appermont: The Green Hill (Beriato Music)
 - ④Philip Sparke: Variation on an English Hymn Tune (Anglo Music)

※(1)(2)は暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

※(1)(2)のいずれも途中でカットする場合がある。

※(2)の伴奏者は大学が用意する(伴奏譜の提出不要)。

打楽器

ティンパニ、小太鼓、マリンバのいずれかの課題で受験すること(出願書類に楽器を記入すること)。
以下記載の順で演奏すること。演奏箇所については当日試験委員の指示に従うこと。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■ティンパニ

- (1) ロール **pp** $\longleftarrow$ **ff** $\longrightarrow$ **pp** (30 秒以上) 音程は当日指定する。
- (2) R. Hochrainer: Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger) No.19, 26, 34, 39, 43, 44 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) 小太鼓による 2 つ打ち(響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと)
- (5) マリンバによる 2 オクターヴの長音階と短音階(調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)

■小太鼓

- (1) 2 つ打ち、ロール **pp** $\longleftarrow$ **ff** $\longrightarrow$ **pp** (30 秒以上) 響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと。
- (2) A. J. Cirone: Portraits in Rhythm. No.3, 4, 12, 13, 30, 32 より当日指定する。
- (3) 簡単な初見演奏
- (4) マリンバによる 2 オクターヴの長音階と短音階(調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)。

■マリンバ

- (1) 3 オクターヴの長音階、短音階、分散和音(調性は当日指定、音型は自由とする。ただし、長音階は繰り返しあり、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する)。
- (2) M. Goldenberg: Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music) の 39 Etudes の V(5 番), XV(15 番), XVIII(18 番), XIX(19 番), XX(20 番)より当日指定する。
※V(5 番)は繰り返しなし
- (3) 自由曲(伴奏なし)
- (4) 簡単な初見演奏
- (5) 小太鼓による 2 つ打ち(響き線ありで演奏すること。楽器は各自持参のこと)

3. 作曲指揮専攻

作曲「芸術音楽コース」

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 日本語による小論文(60分)

3. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)・・・

和声聴音

各専攻共通1題および専攻別1題

大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

6. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度はJ=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)

(3) 自由曲1曲(自作品は不可)

※繰り返しは任意。

※(2)(3)計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

7. 専攻実技

(1) 和声 (イ) 転調および非和声音を含むバス課題(2時間)

(ロ) 転調および非和声音を含むソプラノ課題(2時間)

(2) 作曲 与えられた動機による楽曲の創作(5時間)

(3) 面接 10分程度(作曲を志した動機等)

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)・・・
和音聴音

各専攻共通1題および専攻別1題
高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 専攻実技

(1) 伴奏付け: 譜面作成とそのピアノ演奏(1時間)

①与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。譜面は手書きで書いたものを提出する(譜面作成時、備え付けのキーボード使用可)。

②①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(2) 和声(2時間)

①転調を含むバス課題。

②簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。

※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(3) 小論文(1時間)

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

(4) 面接とプレゼンテーション

①面接

作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。また特別な音楽的能力を有する者は面接でアピールすることができる。(注1参照のこと)

②ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない(ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可)。(注2参照のこと)

③伴奏付け(専攻実技課題(1))の実演

専攻実技課題(1)伴奏付けにおいて与えられた旋律に対して行った「伴奏／コード付け」をピアノで演奏する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて「伴奏付け」の科目が認定された者は、本入試での「③伴奏付け(専攻実技課題(1))の実演」の試験を免除する。

④自作曲の評価

自作曲のデモ音源、楽譜(スコア等)を持参し、面接時にアピールすること(注3参照のこと)

注 1 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像（動画ファイル）を面接時に提出すること（ライブ、コンサート等の映像も可とする）。

ただし、提出できる映像は2本まで。各映像の長さは3分未満とする。

また、映像内で受験者本人を確認（本人の姿やクレジット表記）できるものとする。

動画ファイルの拡張子は mov または mp4 のいずれかとし、USB メモリに保存して面接当日に持参すること。

《当日の楽器演奏を希望する場合》

ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。

ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。

電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

注 2 ピアノ演奏について

①基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。

②自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(4)④の自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

③暗譜で演奏すること。

注 3 自作曲について

曲数は2曲までとし、各曲の長さは3分未満とする。楽曲のスタイルやジャンルは自由だが、デモ音源は試聴するための十分な状態を満たすこと。

《デモ音源、楽譜の提出について》

①デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子は wav、aif、mp3 のいずれかとし、USB メモリに保存して面接当日に持参すること。また複数曲の場合は、試聴する順に番号をファイル名の先頭に入れること。

（例：01_song.wav）

②楽譜（スコア等）に曲名、受験番号、氏名を記入の上、4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。

指揮

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

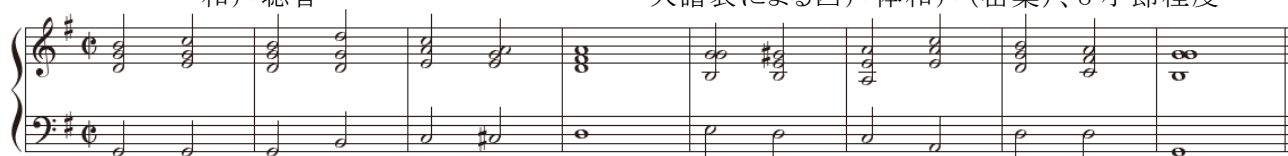
※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)……

各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音 ……………

大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は $J=76$ 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符 $=72$ 程度以上とする。

(2) J.S.バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)

(3) 古典派ソナタより任意の1曲(第1楽章または終楽章)

※繰り返しは任意。

※(2)(3)計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

6. 専攻実技

(1) 聴音(単旋律、二声および木管四重奏)

(2) 新曲視唱(各種音部記号による。ただし、メゾ・ソプラノ、バリトン記号を除く)

(3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い

(4) スコアリーディング(2管編成程度の管弦楽曲)

(5) 指揮実技

(イ) 2管編成程度の管弦楽曲の初見指揮(演奏は2台のピアノによる)

(ロ) モーツァルト: 交響曲第35番ニ長調ベーレンライター版(演奏は2台のピアノによる)

(ハ) ベートーヴェン: 劇音楽『エグモント』序曲 ※版は問わない(演奏は2台のピアノによる)

※(ロ)(ハ)は暗譜で演奏(指揮)すること。

(6) 演奏実技(ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

(7) 和声(バス・ソプラノ課題「初級程度」1時間)

(8) 小論文(1時間)

(9) 口述試問

4. 音楽文化教育専攻

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 選択科目 以下の課題の(A)～(C)より2つを選択する。

(A) 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(B) 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(C) 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)…… 和音聴音 ……………

各専攻共通1題および専攻別1題
高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 小論文(60分)

当日出題する課題について800字程度で論じる。

4. 口述試験

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した論文の内容について問う。

5. 実技

以下から実技を1つ選択する。

■声楽 自由曲 1曲(暗譜。伴奏者は大学が用意する。伴奏譜を出願書類と共に提出のこと)

■ピアノ 自由曲 5分程度(自作品は不可。複数曲可。暗譜)

■弦楽器 自由曲 5分程度(複数曲可。暗譜。伴奏なしで演奏すること)

※受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる

■管打楽器 自由曲 5分程度(複数曲可。暗譜の必要なし。伴奏なしで演奏すること。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可))

※受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる

5. ミュージック・リベラルアーツ専攻

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 面接

「英語」または「英語と日本語」で行う(試験当日、本人の希望を確認)

音楽に関する基礎知識を問う質問を含む。また、外国人留学生には簡単な日本語能力を問う質問をする。

ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ、ピアノ演奏家コース)受験者で「非対面式」で受験する場合の面接はZoomで行う。詳細は出願締め切り後に個別に連絡する。

3. 専攻実技

以下の声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器、作曲、創作、指揮、古楽器、邦楽器から実技をひとつ選択すること。演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

■声楽

以下の課題(A)、(B)のいずれかを選択すること。

(A) 自由曲2曲(演奏の途中で打ち切ることがある。暗譜)

(B) 声楽専攻声楽芸術の課題

■ピアノ

以下の課題(A)、(B)のいずれかを選択すること。

(A) 器楽専攻ピアノの課題

(B) 器楽専攻ピアノ演奏家コースの課題

※ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ演奏家コース)の受験結果により、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ)に合格となる場合がある。

※ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ)に合格した春学期入学希望者は、所定の試験を受験し合格することにより、ミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ演奏家コース)へ転コースすることができる。(詳細は、後述の「14. ピアノ演奏家コースへの転コースについて」を参照)

■弦楽器(受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる)

以下の課題(A)、(B)のいずれかを選択すること。

(A) 自由曲7-15分程度(複数曲可。暗譜。伴奏なし)

(B) 器楽専攻弦楽器の課題

■管打楽器(受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる)

以下の課題(A)、(B)のいずれかを選択すること。

(A) 自由曲7-15分程度(複数曲可。暗譜の必要なし。伴奏なし)

※楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

(B) 器楽専攻管打楽器の課題

■作曲

(1) 与えられた動機による楽曲の創作(5時間)

※秋学期入学者(B日程)では、電子ピアノ使用可。

(2) 楽器演奏(自由曲3分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に演奏や作曲についての簡単な質問をすることがある。)

※持ち込みができない楽器による演奏は認めない。ただし、ピアノについては、本学備え付けのものを使用可。

(3) 創作課題に関する口述試問

■創作

- (1) 作品提出 1 曲ないし 2 曲(組曲は 1 曲とみなす)
※編成、演奏時間は任意。
※楽譜は、鮮明な自筆あるいはコンピュータ浄書とする(コピー可)。
※表紙に曲名、氏名を記入し、簡易に製本すること。
※譜面各ページの右上に氏名を必ず記入し、ページ番号を表記すること。
※出願書類と共に提出すること。ただし、出願書類に同封できない場合は別送可。
- (2) 楽器演奏(自由曲3分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に音楽についての簡単な質問をすることがある)
※持ち込みができない楽器による演奏は認めない。ただし、ピアノについては、本学備え付けのものを使用可。
- (3) 提出作品に関する口述試問

■指揮

以下の課題(A)、(B)のいずれかを選択すること。

(A) 下記の試験課題

- (1) 聴音(単旋律、二声)
- (2) 新曲視唱
- (3) 指揮実技
モーツァルト: 交響曲第 35 番ニ長調 ベーレンライター版(演奏は2台のピアノによる)
- (4) 演奏実技(ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声乐不可)
※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。
- (5) 和声(バス課題「初級程度」45 分)
- (6) 小論文(英語または日本語 60 分)
- (7) 口述試問

(B) 作曲指揮専攻指揮の課題

※小論文は、英語または日本語で解答可能。

■古楽器[リコーダー、リュート、チェンバロ、オルガン]

自由曲 7-15 分程度(伴奏なし。オルガンはペダルなしでもよい)

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■邦楽器[箏(生田流)、長唄三味線、琵琶(鶴田流) 古典尺八]

自由曲 5 分以上(複数曲可。暗譜)

6. 吹奏楽アカデミー専攻

○入学試験科目

1. 英語

以下より1つ選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 日本語による小論文(60分)

3. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 選択科目 以下の課題の(A)～(D)より1つを選択する。

(A) 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

(B) 初見演奏 12小節程度の旋律を1曲

専攻実技時に1分間の予見、無伴奏で演奏する。試験順は、専攻実技 → 初見演奏 → 面接および口述試問、となる。

(C) 聴音(30分): 旋律聴音(8小節程度)…… 各専攻共通1題および専攻別1題
和音聴音 …………… 高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(D) 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

(1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No.39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No.39 の場合は、速度は♩ = 76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符 = 72 程度以上とする。

(2) 自由曲: ソナチネ、ソナタ、バッハのインヴェンション程度の楽曲を1曲。ソナチネ、ソナタの場合はその任意の楽章を1つ。

※繰り返しは任意。

※抜粋の場合は、専攻別曲目記入票に楽章等を明記すること。作品番号、調性なども記入すること。

5. 面接および口述試問

6. 専攻実技

下記の専攻実技の課題を演奏すること。いずれも特殊管による演奏可。

演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

◇課題曲

吹奏楽アカデミー専攻 木管楽器

■フルート

(1) 音階および分散和音

次の音型によって音階および分散和音を長調と短調(和声的)それぞれ1つずつ演奏すること。
調性、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。

長調



短調



(2) 次のの中から任意の一曲を選び演奏すること。

J.Andersen: 24 Studies. [または Etudes.] Op.21 (J.アンデルセン『24の練習曲』作品21)より第4番, 第10番, 第24番

E.Koehler[または Köhler]: 12 Medium Difficult Exercises. Op.33-2 (E.ケーラー『12の中級練習曲』作品33の2[または『35の練習曲』作品33の第2巻])より第5番, 第10番, 第12番

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■オーガエ

(1) 音階

次のA、Bいずれかの音型によって長音階と短音階を演奏すること。調性、スラー等は任意。短音階は和声的または旋律的を任意選択。暗譜で演奏すること。

A例



B例



(2) F. W. Ferling: 48 Etudes, Op.31 (F. W. フェルリンク『48のエチュード』)より

任意の奇数・偶数番号を1曲ずつ選択し2曲を演奏すること。

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■クラリネット

※エス・クラリネット～バス・クラリネットまで、どの特殊管で受験してもよい。

(1) 音階

R. Eichler: Scales for Clarinet (国立音楽大学出版)より各調の1番をスラーで演奏すること。

長調と短調をそれぞれ任意で1つずつ。繰り返しなし。暗譜で演奏すること。

(2) C. Rose: 32 Etudes (C. ローズ『32のエチュード』)より任意の奇数・偶数番号を1曲ずつ選択し2曲を演奏すること。

※(2)は版の指定なし。繰り返しは任意。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■ファゴット

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)を演奏すること。調性、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。



- (2) J. Weissenborn: Fifty Bassoon Studies, Op.8. Vol. 2 (J.ヴァイセンボーン『50の練習曲』作品8第2巻)のNo.1-15より任意の2曲。

※版の指定なし。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

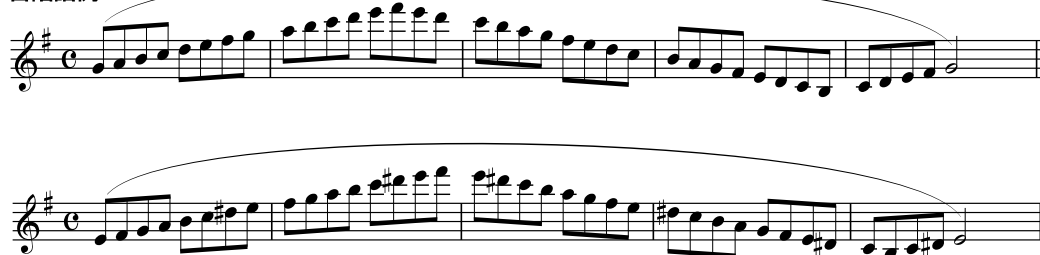
■サクソフォーン

※ソプラノ、アルト、テナー、バリトンのどの楽器で受験してもよい。

(1) 音階

次の音型によって、長音階と短音階(和声的)をスラーで演奏すること。調性は全調の中から任意。暗譜で演奏すること。繰り返しなし。

音階譜例



- (2) F. W. Ferling: 48 études pour tous les saxophones (F. W. フェルリンク『サクソフォンのための48の練習曲』[M. ミュールによる増補改訂版] (A. Leduc))より任意の奇数番号1曲と任意の偶数番号1曲の計2曲を演奏すること。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

金管楽器共通課題（音階および分散和音）

次の音型によって、長音階と短音階(和声的または旋律的)を演奏すること。
調性、音域、スラー等は任意。暗譜で演奏すること。

< 高音部譜表での例 >



< 低音部譜表での例 >



■ホルン

- (1) 金管楽器共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Horn (G. コブラッシュ『60のエチュード(ホルン)』)より任意の2曲。
※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■トランペット

- (1) 金管楽器共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Trumpet (G. コブラッシュ『60のエチュード(トランペット)』)より任意の2曲。
※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■トロンボーン、バス・トロンボーン

- (1) 金管楽器共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』)より任意の2曲。
※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。
※バス・トロンボーンで受験する場合は1オクターヴ下げて演奏してもよい。

■チューバ

- (1) 金管楽器共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Tuba (G. コブラッシュ『60のエチュード(チューバ)』)より任意の2曲。
※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。
※使用する楽器の管の種類は問わない。

■ユーフォニアム

- (1) 金管楽器共通課題（音階および分散和音）
- (2) G. Kopprasch: Sixty Selected Studies for Trombone (G. コブラッシュ『60のエチュード(トロンボーン)』)より任意の2曲。
※版の指定なし。繰り返しなし。ただし、ダル・セーニョは行う。暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

吹奏楽アカデミー専攻 打楽器

(1) 打楽器共通課題

- ① 鍵盤打楽器による2オクターヴの長音階と短音階。調性は調号3つまでの調から任意。音型は自由。
ただし、短音階は和声的短音階と旋律的短音階を演奏する。
※楽器はシロフォン、マリンバ、ヴィブラフォンより選択すること。
- ② 小太鼓による2つ打ち(楽器は各自持参のこと)

(2) 楽器別課題

下記のいずれか1つを選択すること。

■ティンパニ

R. Hochrainer: Etüden für Timpani. Heft 1 (Doblinger) の No. 8, 9, 10 のうち、任意の2曲。
※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■小太鼓

W. F. Ludwig: Collection Drum Solos (Ludwig Music) より The Connecticut Halftime
※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

■鍵盤打楽器

M. Goldenberg: Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone (Alfred Music) の 39 Etudes より V, VII のどちらか1曲。
※(1)①と同一楽器で演奏すること。
※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。

吹奏楽アカデミー専攻 弦楽器

■コントラバス

(1) 音階および分散和音

次の楽譜を演奏すること。運指の指定なし。暗譜の必要なし。



(2) F. Simandl: 30 Etudes for the String Bass (C. Fischer) より任意の1曲、または任意の自由曲を1曲。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。
※オーケストラチューニング。
※伴奏なし。

■ハープ

任意の自由曲1曲。

※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること(電子楽譜は使用不可)。
※伴奏なし。

7. ミュージックビジネス・テクノロジー専攻

○入学試験科目

1. 選択科目

以下より1つを選択する。

(1) 本学が行う試験(60分)

英語・数学(大学入学共通テスト『数学Ⅰ, 数学A』、『数学Ⅱ, 数学B(ただし数学Bは「数列、統計的な推測」)』の出題範囲)より1科目選択。

(2) 資格試験

詳細は「12. 出願時の英語資格・検定試験について」を参照のこと。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 小論文(60分)

当日出題する課題について800字程度で論じる。

3. 口述試験

志望動機、将来の希望などとともに、試験において作成した小論文の内容について問う。

14. ピアノ演奏家コースへの転コースについて

外国人留学生選抜で器楽専攻(ピアノ)またはミュージック・リベラルアーツ専攻(ピアノ)に合格し、入学手続きをした者は、2027年2月(一般選抜A日程の入試期間中)に行われる転コース試験を受験し合格することにより、ピアノ演奏家コースへ転コースすることができます。

* 転コース試験の結果が不合格の場合でも、外国人留学生選抜の可否には一切影響ありません。

* 本学入学後にもピアノ演奏家コースへの転コースの機会があります(例年各学年度末。詳細は入学後に掲示等で確認してください)。

【転コース試験課題】

本要項の「ピアノ演奏家コース」実技試験課題をご覧ください(実技試験のみ)。

【願書請求方法】

転コース試験出願を希望する場合は本学入試課にメールにて願書等を請求してください。メールの件名、本文には以下のとおり記載してください。お電話での請求はご遠慮ください。

件 名: 転コース試験願書希望

メール本文: ①外国人留学生選抜受験時の受験番号

②氏名

③願書データ送信先メールアドレス

送 信 先: nyushi@tokyo-ondai.ac.jp

【検定料】

28,000 円

15. 注意事項

■受験上の注意

- ①試験当日の集合時間など受験に関する詳細は、試験初日の3日前までにメール等で通知しますので、必ずご確認ください。試験日時・会場に関する電話やメールでのお問合せはご遠慮ください。
- ②試験当日の大まかな流れは原則として以下のとおりです。定められた時刻までに集合場所に集合し、以降はすべて係員の指示に従ってください。**集合・受付** → **直前練習** → **試験**
- ③実技試験において集合時刻に遅れた者は受験を許可しません。やむを得ない事情(公的事情)により遅刻をした場合は、直ちに係員に申し出てください。
- ④入試期間中、受験者はキャンパスの練習室を無料で利用することができます。各自の専攻実技試験終了後は使用できません。予約方法等の詳細は、受験生専用ページに掲載するお知らせを参照してください。
- ⑤試験当日に持参するもの
 - ・受験票(各自で忘れずに印刷してください。受験票を持たない者は入構できません)
 - ・筆記用具
 - ・必要な楽器、スタンド等
 - ※コントラバス、ハープ、チューバ、ティンパニ、鍵盤打楽器以外の貸出しはしません。
 - ・昼食(試験が昼食時間におよぶ場合)
 - ・楽譜
 - ・時計
 - ※辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可。
 - ※携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末は使用できません。
- ⑥保護者の入構はできません。
- ⑦服装については、特に指定しません。

【入試期間中の宿泊について】

空きがある場合、大学近郊の学生会館(有料)を利用できます。体験入寮のため、特別料金で連泊可能です。ご希望の場合は、以下へお問い合わせください。

(株)共立メンテナンス 学生会館事務局

Tel 0120-88-1030

受付時間 9:00～17:30(土日・祝日を除く)

お電話の際、東京音楽大学の受験者であることをお伝えください。

※宿泊施設には防音設備のついた練習室はありません。

※部屋数には限りがあるため、空室のある寮へのご案内になります。詳しくはお電話で確認の上、各自お申し込みください。

※宿泊施設での事故等の責任は大学では負いかねます。

■出願書類の記入・提出に関する注意

Web 出願サイトでユーザー登録を行った後、本学ホームページから必要書類を印刷します。印刷した出願書類とそれ以外の必要書類(調査書等)は、すべて揃っていることを確認の上、期限内に郵送にて提出してください。本学の窓口では受け付けません。出願後の提出書類の変更は認めません。また、提出された書類は返還しません。

出願書類の記入については、以下の注意事項をよく読み、誤りや漏れのないよう記入してください。

- ①各出願書類は、黒、青インクまたはボールペンを使用し、文字は楷書で、数字は算用数字で正確に記入してください。書き損じた場合は、二重線を引いて訂正印を押し、空いているところに記入してください(修正液・修正テープは使用しないでください)。
- ②該当欄は記入または○で囲んでください。※欄は記入不要です。
- ③願書および受験票には Web 出願サイトでアップロードした写真が用いられます。Web 出願サイト上の注意事項「顔写真について」の記載に従って撮影したものをアップロードしてください。
- ④伴奏譜について
声楽専攻(声楽芸術)、器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(声楽(A)(B)課題、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの(B)課題)、音楽文化教育専攻(声楽)を志望する志願者は、伴奏譜を出願書類に同封してください。伴奏譜の作成方法等は「伴奏譜の提出について」を参照してください。

※個人情報の取り扱いについて

- ① 本学は、志願者の出願書類に記載された個人情報および入学試験の成績を入学試験業務に利用します。なおこれらの個人情報は個人情報保護法に則り万全の体制で管理します。
- ② 本学は、上記の個人情報を大学入学選抜および大学教育の改善のための調査・研究や学術研究の資料としても利用します。調査・研究結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。
- ③ 本学は、願書記載事項のコンピュータ登録業務、受験票、合格通知書、入学手続書類等の発送の業務を、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者へ委託する場合があります。

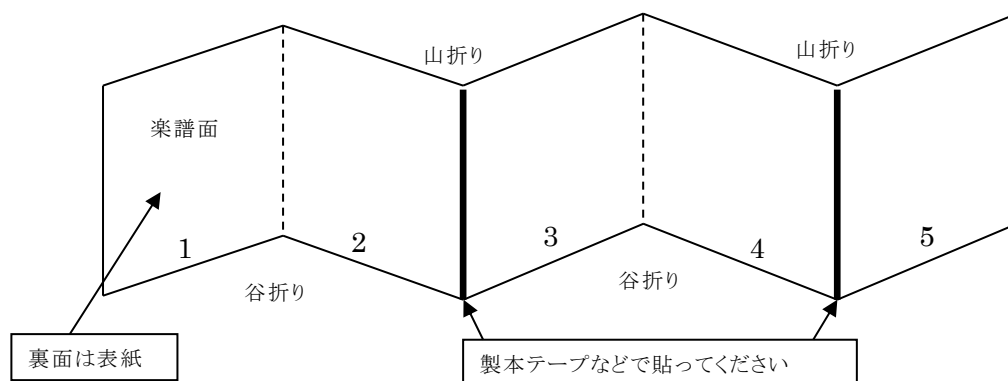
■伴奏譜の提出について

以下の①～⑤に該当する場合のみ伴奏譜を出願書類と共に提出してください。

- ① 声楽専攻(声楽芸術)の自由曲
- ② 声楽専攻(声楽芸術)課題曲で課題曲表のカッコ内に記入してある調以外で受験する場合の移調譜
(課題曲カッコ内の調で受験する場合は、伴奏譜の提出は必要ありません)
- ③ 器楽専攻(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)の自由曲
- ④ 音楽文化教育専攻(声楽)の自由曲
- ⑤ ミュージック・リベラルアーツ専攻のうち、声楽(A)(B)課題、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの(B)課題

○伴奏譜作成手順

- ① 楽譜は A4 判縦を 1 ページとし、コピーの濃淡等を調整の上、鮮明な楽譜を提出してください。
- ② 1 曲ごとに表紙にあたる白紙ページを設け、表紙ページの右下に①作曲者、曲名、②自由曲伴奏譜、移調譜の区別、③専攻・楽器名等、④氏名・受験番号を記入してください。
- ③ 2 ページ以上になる場合は、アコーディオン状に折って、製本テープ等で貼ってください。
- ④ 課題で指定された省略(前奏、間奏、後奏)を書き込む場合は、赤インクのペン等でわかりやすく記入してください。それ以外の書き込みは不可とします。
- ⑤ 手書きの伴奏譜を作成する場合は、定規等を使用し、黒インクのペン等で正しく丁寧に清書した譜面を提出してください(鉛筆書きは不可)。



＜表紙の書き方＞※裏面は楽譜 1 ページ目

① 作曲者 曲名	② 自由曲の伴奏譜は「自由曲」と記入、 課題曲の移調譜は「移調譜(調性)」と記入
W. A. Mozart An Chloe	移調譜(D)
△△専攻 (声楽)	音大 花子 123456
③ 専攻(コース名または楽器名等)	④ 氏名・受験番号

■創作曲楽譜について

器楽専攻(ピアノ・創作コース)、ミュージック・リベラルアーツ専攻(創作)を受験される方は、以下の要領で創作曲楽譜を出願書類と共に提出してください。

- ① 楽譜は、鮮明な自筆あるいはコピーとし、コンピュータ浄書も可とします。
- ② 表紙に曲名、受験番号、氏名を記入し、簡易に製本してください(ホッチキス止め可)。
- ③ 譜面各ページの右上に氏名を必ず記入してください。また、ページ番号を表記してください。

■専攻別曲目記入票の記入方法について

記入上の注意

- ①演奏する曲目、作曲者、調性、作品番号、楽章等まで該当する欄に詳しく記入してください。
- ②作品番号は、「Op.30 No.2」のように明確に、漏れののないよう記入してください。
- ③楽章等の記入は、「第1楽章」「第2楽章」と「第」を入れて記入してください。
- ④曲目等の記入は、特に指定がなければ、邦語、原語どちらでも構いません。
- ⑤ピアノ自由曲で一部省略する場合は、その箇所を記入してください。
- ⑥書き損じた場合は、二重線を引き、空いている場所書き直してください。修正テープ不可。
- ⑦出願後は、受験曲名、調の変更(訂正)は認めないので、間違いのないように正確に記入してください。
- ⑧曲目記入票に記入された事項(作曲者、曲目、調性、平均律巻名、楽章等)が試験で演奏したものと異なる場合、原則として失格になりますので注意してください。

〈 記入例 〉

課題	作曲者名	曲目	調性	作品番号	楽章等
(2)	Clementi	Sonatina	中長調 ハ長調	Op.36 No.1	第1楽章

「第」を入れて記入してください。

作品番号は明確に、もれののないよう記入してください。

書き損じた場合は、二重線を引き、空いているところに記入してください。修正テープ不可。

特に指定がなければ、邦語、原語どちらでも構いません。

〈 非対面式記入例 〉

	作曲者名	曲目等	演奏時間	
			(分)	(秒)
自由曲	ベートーヴェン	ソナタ 第1番 ヘ短調 op. 2 no. 1		
		第1楽章	演奏開始時間	00 03
			演奏時間	04 00
		第2楽章	演奏開始時間	04 20
			演奏時間	05 30
	ショパン	練習曲 ハ長調 op. 10 no. 1	演奏開始時間	10 00
			演奏時間	02 00
	ドビュッシー	前奏曲集 第1集		
		デルフィの舞姫たち	演奏開始時間	12 10
			演奏時間	03 00
		自由曲演奏時間合計	14 (分)	30 (秒)

演奏開始時間は動画上でそれぞれの曲を演奏し始めた時間を記入してください。

※出願書類を郵送する時点で演奏時間、演奏開始時間を記入できない場合は、曲目記入票のコピーに演奏開始時間を記入したものを後から郵送してください(動画提出締切日翌日の消印有効。郵送は普通郵便可)。

「第」を入れて記入してください。

漏れののないよう記入してください。

〈 弦楽器記入例 〉

課題	作曲者	曲目	番号	楽章	調性	作品番号
(1)	C.フレッシュ	スケール システム	第5,6,7,8番		二長調	
(2)	N.パガニーニ	24のカプリスより	第16番		ト短調	Op.1
(3)	W.A.モーツァルト	協奏曲	第5番	第1楽章	イ長調	K.219

- ・上記を参考に、日本語表記優先で記入してください。例えば、Concerto は協奏曲、Sonata (Sonate) はソナタとします。
- ・数字はすべてアラビア数字とします。

■入学者選抜試験における不正行為について

受験の際には、すべて試験監督の指示に従ってください。以下に該当する場合、不正行為とみなされます。

① 出願の際に本学に提出した書類・資料等に偽造、虚偽の記載、剽窃が見つかった場合

② 受験者以外の者が、受験者本人になりすまして試験を受けた場合

また、以下の行為をすると、不正行為とみなされる場合があります。

- カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案を見ること、他の受験者から答えを教わること等）をすること。
- 使用を認められていない用具を使用すること。
- 試験開始の合図の前に問題冊子を開き、解答を始めること。
- 試験終了の合図の後に筆記用具や消しゴムを持ち続ける、または解答を続けること。
- 試験時間中に、他の受験者に答えを教えるなど、他の受験者を利する行為。
- 試験時間中に、他の受験者に迷惑となる行為。
- 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ウェアラブル端末(眼鏡型・腕時計型等)、イヤホン等を身につける、または作動させること。
- 試験期間中に、本学構内において入学者選抜試験に関する問題および解答用紙、試験室・控室等の会場、掲示物等を写真または動画で撮影する行為、またはそれらをSNS等インターネット上へ掲載する行為。
- 非対面式試験において、「同意書」に記載の内容に反する行為。
- 受験時の写真照合において、本人確認が困難となる程度の加工・修正を施した写真を用いて WEB 出願登録を行うこと。
- その他、試験の公平性を損なう行為。

試験実施中に不正行為と思われる行為が認められた場合、試験監督が注意し、試験の中止や退室を指示することがあります。不正行為の疑いに対処した時間があっても、その受験者は、試験時間の延長を求めることはできません。

不正行為と認められた場合、それ以降の受験はできなくなり、当該年度における本学のすべての入学試験の結果を無効とします。また、入学検定料は返還しません。

16. 奨学金・経済的支援制度について

本学の奨学金・経済的支援制度については、以下のリンクをご覧ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/information/12765.php>



17. 学生寮(女子のみ)について

自宅からの通学が困難(通学時間3時間以上を目安)な学生(女子)に対し、学生寮が設けられています。

(1) 施設・設備

- ①所在地 〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷3-22-10(池袋キャンパス敷地内)
- ②収容定員 124名(高校生20名を含む)
- ③建物の構造 地上5階
- ④寮室面積 約8㎡
- ⑤寮室備品 デスク、収納棚、ベッド、エアコン、冷蔵庫 ※Wi-Fi完備
- ⑥付帯設備 ラウンジ、浴室、洗面所、洗濯室、パソコン、コピー機

(2) 入寮費用(2026年度入学者実績・参考)

入寮金(入寮時のみ)	寮費
80,000 円	78,000 円(月払い・食費込) ※朝・夕 2 食(日・祝含む)

①寮費(月額)は、1 年間にかかる総額の 12 等分となります。

②上記費用は、物価の高騰等により値上げする場合があります。

(3) 申込方法等

①春学期入学者

【申込方法】

入寮希望者は、合格者に送付する書類に同封されている「2027年度東京音楽大学学生寮入寮申込書」に必要事項を記入の上、入学手続書類に同封し郵送してください。

【選考】

新年度の入寮可能数内で入学試験の成績・調査書類等を総合的に考慮の上、大学が決定します。申込者多数の場合、入学試験に合格しても入寮許可にならない場合があります。

【発表・手続】

- ・入寮を許可する者には、大学から直接通知します(1月下旬までに通知予定)。
- ・入寮許可後に辞退する場合は、至急学生支援課へ電話または、ryou_shienka@tokyo-ondai.ac.jpにご連絡ください。
- ・入寮手続の詳細は、大学からの入寮許可通知とともにお送りする入寮手続書類を参照ください。

②秋学期入学者

2 月、3 月の時点で、学生寮に空室がある場合は、本学ウェブサイト内に開設される合格者専用ページにて、募集の詳細をご案内いたします。

(4) その他

- ①お盆および年末年始の指定日は、閉寮となります。
- ②入寮申し込みの際には、必ず入寮案内で詳細を確認してください。
- ③不明な点は、学生支援課(TEL 03-6455-2756)までお問い合わせください。

東京音楽大学

【中目黒・代官山キャンパス】

〒153-8622 東京都目黒区上目黒 1-9-1

【池袋キャンパス】

〒171-8540 東京都豊島区南池袋 3-4-5

ホームページアドレス <https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

問い合わせ先: 03-6455-2754 (TEL) 日・祝日除く 9:00～17:00

03-6455-2774 (FAX)

nyushi@tokyo-ondai.ac.jp (メール)